

## 2 平成 30 年度事業の実績

### (1) 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成

- ア 青少年の体験活動の充実
- イ 地域が支えるキャリア教育の充実
- ウ 子どもの読書活動の充実
- エ 地域全体で子どもを育む活動の充実
- オ 家庭教育支援の充実

### 生涯学習課

「地域のお宝」を学び地域活動を担う高校生育成事業 2,760 千円

#### 〔事業目的及び概要〕

地域への愛着と誇りを持って地域活動に参加し、地域の魅力を発信できる高校生を育成することを目的とし、自然・史跡・食・伝統芸能などの地域資源の魅力を、学びと体験を通じて再認識し、それらを関連付けて紹介する取組の企画・実践及び発表を行う事業である。

#### 〔事業内容及び結果〕

(1) 「地域のお宝物語」の企画

ア 事業を委託した 12 市町村実行委員会の概要

市町村	参加高校生が在籍する高校	活動を支える大人の委員	活動方針・テーマ
青森市	青森西高校、青森北高校、青森南高校	NPO法人コミュサーあおもり、青森市教育委員会	あおもりの魅力を発信するためのフードやグッズを企画・開発し、PRする
平内町	青森東高校平内校舎	平内町教育委員会	平内町特有の自然や史跡など、地域資源をナビゲートする
五所川原市	五所川原商業高校	NPO法人津軽半島観光アテンダント推進協議会、五所川原市教育委員会	津軽鉄道沿線の観光資源に焦点をあて、その魅力を案内する
つがる市	木造高校	つがる市フィルムコミッション、つがる市教育委員会	亀ヶ岡縄文遺跡や特有の自然を巡り、映像技術を駆使した物語を紹介する
黒石市	黒石高校、黒石商業高校	上十川獅子踊保存会、黒石市教育委員会	上十川獅子踊を中心に、地域の自然や歴史、伝統文化を案内する
大鰐町	弘前高校、弘前中央高校、弘前南高校、柏木農業高校、弘前工業高校、弘前実業高校、東奥義塾高校、柴田女子高校、弘前東高校	OH!!鰐元気隊、大鰐町教育委員会	OH!!鰐元気隊キッズを体験した高校生たちが町の観光資源や歴史を紹介する
三沢市	三沢高校、三沢商業高校	三沢市教育委員会	地元食材を用いたオリジナルバーベキューの企画・実践を通して、三沢市の魅力を発信する
野辺地町	青森高校、野辺地高校、野辺地西高校	ちーむ野 open、野辺地町教育委員会	野辺地町特有の食や観光資源など、お宝探しの物語を紹介する

市町村	参加高校生が在籍する高校	活動を支える大人の委員	活動方針・テーマ
むつ市	大湊高校	北の防人大湊ガイドグループ、むつ市教育委員会	むつ市水源池公園周辺の名所や名物を学び、水と人々の暮らしをテーマに「大湊」の魅力をナビゲートする
東通村	田名部高校	総合学習塾てらこ屋、東通村教育委員会	高校生たちが、東通村の地域資源を活用した「社会起業」(高校生カフェの設立)を目指した取組を紹介する
三戸町	三戸高校	三戸町教育委員会	まち歩きなどを通して地元の観光資源を学び、「裏三戸町」を紹介する
階上町	八戸商業高校、八戸工業大学第一高校、八戸工業大学第二高校	階上町教育委員会、八戸学院大学	町のイベントやまち歩き体験で発見した新たな階上町の魅力をPRする

イ 事業委託期間 委託決定日～3/8(金)

(2) 「地域のお宝物語」研修・交流会の開催

《東青・下北地区》

○日時：12/9(日)10:00～12:30 ○場所：県立図書館 ○参加者数：43名

○内容：公益財団法人むつ小川原地域・産業振興財団常務理事兼事務局長神重則氏による講話  
「地域の魅力を発信するために」～地域を見つめ直し、素晴らしさを実感しよう～  
交流会(それぞれの地域の自慢、青森県のキャッチコピー)

《西北・中南地区》

○日時：11/4(日)9:30～12:00 ○場所：五所川原市民学習情報センター ○参加者数：43名

○内容：公益社団法人弘前観光コンベンション協会事務局長坂本崇氏による講話  
「近すぎて見えない地域のお宝」～地域の魅力を発信するための企画方法を学ぶ～  
交流会(どのように地域の魅力を発信するのか)

《上北・三八地区》

○日時：11/10(土)9:20～12:00 ○場所：三沢市役所 ○参加者数：42名

○内容：神重則氏による講話  
「地域の魅力を発信するために」～地域を見つめ直し、素晴らしさを実感しよう～  
交流会(各市町村の取組、どのように地域の魅力を発信するのか)

(3) 高校生による「地域のお宝物語」プレ発表会(中間発表会)の開催

○日時：2/2(土)13:00～15:40 ○場所：県総合社会教育センター ○参加者数：176名

○内容：12市町村実行委員会代表の高校生による発表、パネルセッション交流会

[成果と課題]

各市町村実行委員会において、高校生や小・中学生たちが地域資源の魅力を学ぶワークショップや体験活動を通して、それぞれの地域の特色を生かした「地域のお宝物語」の企画段階の取組を進めることができた。

3地区で開催した研修・交流会は、各教育事務所主管により、講師選定やグループ協議の内容まで十分に検討され、有意義な研修・交流の機会になった。

中間発表会では、それぞれの実行委員会を代表する高校生たちによるステージ発表とパネルセッション交流会を行った。来場者アンケートでは、「高校生たちが自分の言葉で話しているのがとてもよかった」、「このような取組をもっと多くの人に知ってほしい」などの感想が寄せられた。それぞれの実行委員会が次年度取り組むストーリー制作や実践活動において、高校生の主体性を尊重しながら展開されるよう、今後も支援していきたい。

## 社会教育を核とする地域ネットワーク活用促進事業 1,925千円

### 【事業目的及び概要】

様々な立場から社会教育活動を支援していく人財を育成し、地域の活性化を図るため、市町村の社会教育主事等が中心となり、首長部局、企業・民間団体等の地域ネットワークを活用した事業の企画・実践を支援するとともに、地元企業等と学校のネットワーク会議等を実施する事業である。

### 【事業内容及び結果】

#### (1) 地域課題の解決【2 地区 主管：関係教育事務所】

社会教育主事が中心となり、首長部局(まちづくり、地域づくり担当部局)、NPO団体、地域づくり団体等とともに、多面的な視点で、地域に関わる課題を解決したり、地域の良さを生かしたりするための事業を企画・実践した。

##### ア 西北地区

###### <事業の企画①>

○期日：7/4(水) ○会場：中泊町教育委員会 ○参加者：5名

○内容：社会教育を核とする地域ネットワーク促進事業の事業説明、実施要項についての説明と「事業の実践」の委託についての説明

###### <事業の企画②>

○期日：9/13(木) ○会場：くつろぎダイニング哲(中里) ○参加者：10名

○内容：委員顔合わせ会及び事業説明、地域の課題と今後の活動についての話し合い

###### <事業の実践①>

○期日：10/20(土) ○会場：津軽中里駅 駅ナカ空間 ○参加者数：約70名

○内容：ハロウィンパーティー及び仮装コンテスト 他

###### <事業の実践②>

○期日：11/11(日) ○会場：新郷村間木ノ平グリーンパーク ○参加者数：40名

○内容：新郷村青年団「笑志」との交流

##### イ 上北地区

###### <事業の企画①>

○期日：12/14(金) ○会場：上北教育事務所 ○参加者数：5名

○内容：課題の確認、企画事業の検討 他

###### <事業の企画②>

○期日：2/5(火) ○会場：弘前大学 ○参加者数：5名

○内容：講義内容の確認、当日の流れの確認 他

###### <事業の実践>

○期日：2/24(日) ○会場：六ヶ所村中央公民館 ○参加者数：17名

○内容：「地域の活力チャージ！拠点作りを学ぼう！」

実践発表：佐井村矢越地区公民館 館長 福田 功

講義：弘前大学教育学部 准教授 松本 大

#### (2) キャリア教育の推進【青森県教育支援プラットフォーム各地区実行委員会への事業委託】

##### ア 地元企業と学校のネットワーク会議の開催

学校と企業、その他関係者がお互いに「顔の見える関係」を築き、地域における未来をつくる人財像を共有するため、各地区においてネットワーク会議を開催し、学校が求める支援の内容や企業ができる支援内容をマッチングすることを目的に、アドバイザーによるコーディネートのもと、意見・情報交換を行った。

###### 《東青地区》

○日時：2/19(火)10:00～11:00 ○場所：県総合社会教育センター ○参加者数：23名

○内容：特定非営利活動法人プラットフォームあおもり理事長米田大吉氏による講話を実施

###### 《西北地区》

○日時：1/29(火)13:20～15:20 ○場所：五所川原第一高等学校 ○参加者数：271名

○内容：弘前大学人文社会科学部教授李永俊氏による講話、事務局ファシリテーションによるグループ協議を実施

###### 《中南地区》

○日時：8/24(金)14:00～16:30 ○場所：弘前プラザホテル ○参加者数：59名

○内容：株式会社0172代表取締役井上信平氏による講話とグループ協議を実施

《上北地区》

- 日時：2/13(水)14:00～16:30 ○場所：十和田富士屋ホテル ○参加者数：49名
- 内容：株式会社八戸学院グループ代表取締役大谷真樹氏による講話、青森中央学院大学准教授佐藤淳氏によるグループ協議を実施

《下北地区》

- 日時：7/12(木)15:00～17:00 ○場所：むつグリーンホテル ○参加者数：53名
- 内容：特定非営利活動法人青森県就職支援チーム代表理事森岩樹氏による講話とグループ協議を実施

《三八地区》

- 日時：8/28(火)13:00～15:30 ○場所：八戸プラザホテル ○参加者数：92名
- 内容：特定非営利活動法人プラットフォームあおもり理事長米田大吉氏による講話とグループ協議を実施

イ 教育支援見本市、模擬授業等の開催

学校における教育活動の充実のため、地元企業・NPO等が実施している教育支援活動(出前授業・インターンシップ・体験活動等)の具体的な取組の紹介や企業による模擬授業等を行った。

《東青地区》

- ・大野小学校放課後子ども教室「ゆめっこ教室」
- 日時：6/23(土)9:45～11:00 ○場所：青森市立大野小学校 ○参加児童数：15名
- テーマ：Let's Speak English!! ～リズムにのって英語で話そう～
- 講師：ふくし英数教室 福士明美、栗橋和子

《西北地区》

- ・教育支援見本市 ※地元企業と学校のネットワーク会議と同日開催
- 日時：1/29(火)12:30～15:30 ○場所：五所川原第一高等学校
- 参加者数：271名 ○出展企業数：10社

《中南地区》

- ・教育支援見本市
- 日時：1/29(火)12:30～15:30 ○場所：弘前市総合学習センター
- 参加者数：98名 ○出展企業数：14社

《上北地区》

- ・十和田市立法奥小学校「津軽塗体験学習」
- 期日：6/20(水)、7/12(木) ○場所：十和田市立法奥小学校
- ・教育支援見本市 ※常設展示
- 日時：8月～3月(平成30年度末まで)
- 場所：三沢市立図書館、おいらせ町みなくる館・町民交流センター

《下北地区》

- ・小学生対象の職業体験学習「ユメココ教室」
- 期間：7月～11月
- 開催校：第一田名部小学校・大間小学校・大平小学校・東通小学校・関根小学校・大畑小学校

《三八地区》

- ・教育支援見本市
- 日時：1/25(金)13:00～14:45 ○場所：八戸市総合教育センター
- 参加者数：130名 ○出展企業数：15社

[成果と課題]

社会教育主事が中心となって地域の課題や良さについて話し合い、事業を企画・実践することができたことにより、社会教育主事の資質向上が図られた。今後は、より多くの団体から実行委員会のメンバーを集め、多面的な視点から、より充実した話し合いができるよう助言する必要がある。

地元企業と学校のネットワーク会議について、中南・下北・三八の3地区においては、例年と同様に青森県高等学校長協会及び青森県若年者就職支援センター(ジョブカフェあおもり)主催の会議と併催する形で行われた。一方で、西北地区実行委員会は、組織単独での開催に挑戦した。会場を高等学校の体育館とし、教育関係者や企業・事業所関係者が高校生と一緒にテーブルを囲んで「若者の思い描く働き方」について協議するワークショップを企画するほか、教育支援見本市を同時に開催するなど、これ

まで長年に渡って地道な努力を継続してきた同実行委員会委員の行動力が光った。

模擬授業等について、東青地区実行委員会は今年度新たな取組として、小学校での放課後子ども教室「ゆめっこ教室」を企画した。テーマは英会話のエクササイズであったが、児童の職業に対する意識を啓発する内容が十分に盛り込まれており、担当講師との打合せがしっかりとなされていることを感じた。また、中南地区実行委員会は高等学校の職業人講話において、参加企業・事業所への依頼を担当し、事業を成功に導いた。こうした取組のほか、各地区実行委員会は、教育支援見本市の開催を通して、企業等の職場体験や出前授業等の取組を学校教員へ広く周知する事業を継続して行っている。特に、中南地区と三八地区では教員の研修等の機会と同日・同会場で開催することにより、多くの教員に対して本事業の取組を理解してもらおう機会となった。

各地区実行委員会の特色を生かしながら、委員たちの努力を支えていきたい。

## 子どもの読書活動推進事業 2,276 千円

### 〔事業目的及び概要〕

「青森県子ども読書活動推進計画(第三次)」に基づき、読書に親しみ自主的に読書活動をする子どもたちを育成するため、子どもが読書に親しむ機会の充実、環境の整備・充実、理解と関心の普及・啓発を進める取組を展開する事業である。

### 〔事業内容及び結果〕

#### (1) あおもりの中学生・高校生による『大切なあなたへ薦める青春の一冊』

中学生・高校生の読書意欲の向上を図り、自主的な読書活動を促すため、県内の中学生・高校生を対象に仲間や友だちなどに薦めたい一冊の本の紹介文を募集し、優秀作品を表彰した。

また、優秀作品集を 78,000 部、優秀作品周知ポスターを 430 部作成し、中学校、高等学校(特別支援学校中等部及び高等部を含む)、図書館等に配布した。

○募集期間：7/2(月)～9/25(火)

○応募数：4,165 点(中学生の部：27 校 1,098 点、高校生の部：21 校 3,067 点)

○優秀作品受賞者一覧

〈中学生の部〉

最優秀賞	五戸町立五戸中学校 2 年	佐々木 大輝	「未来のミライ」(細田 守/著)
優 秀 賞	青森市立三内中学校 3 年	原子 結那	「友だち幻想」(菅野仁/著)
	五戸町立五戸中学校 2 年	頭久保 京子	「塩狩峠」(三浦綾子/著)
	五戸町立五戸中学校 2 年	野村 朱里	「星の王子さま」 (サン=テグジュペリ/著 内藤濯/訳)
	五戸町立五戸中学校 2 年	安部 凜	「余命 10 年」(小坂流加/著)
	五戸町立五戸中学校 3 年	山田 真滉	「敗者たちの季節」(あさのあつこ/著)

〈高校生の部〉

最優秀賞	県立百石高等学校 2 年	横川 綾香	「働く君に贈る 25 の言葉」(佐々木常夫/著)
優 秀 賞	県立六戸高等学校 2 年	舘向 莉穂	「いつかすべてが君の力になる」(梶裕貴/著)
	県立青森高等学校 1 年	澤田 佳奈	「君たちはどう生きるか」(吉野源三郎/著)
	県立青森東高等学校 1 年	三浦 花音	「ヒーロー!」(白岩玄/著)
	県立青森東高等学校 2 年	長谷川 実咲	「友情」(武者小路実篤/著)
	県立北斗高等学校 1 年	小嶋 菜々子	「はなちゃんのみそ汁」 (安武信吾・千恵・はな/著)
	県立七戸高等学校 2 年	岡村 葉奈	「人間失格」(太宰治/著)

#### (2) 子どもの読書活動推進大会

子どもの読書活動に係る関係者が情報の共有を図り、子どもの読書活動の推進方策を探るために、子どもの読書活動推進大会を開催した。

○日時：7/27(金) 13:00～16:00 ○場所：八戸市福祉公民館 ○参加者数：112 名

○内容

講演「歴史にふれること いまを生きること」 講師 ノンフィクション作家 梯 久美子  
パネルトーク

テーマ「進んで読書に取り組む子どもを育成するために」～「仲間同士で本を薦め合う活動」を通して～

〈私のお薦めの一冊〉

平成 29 年度あおもりの中学生・高校生による『大切なあなたへ薦める青春の一冊』紹介文コンクール 中学生の部 最優秀賞受賞者による本の紹介

八戸市立白山台中学校 3 年 西塚 未瑠 紹介した本「羊と鋼の森」(宮下奈都/著)

〈パネルトーク〉

仲間同士で本を薦め合う取組について

コーディネーター 県立青森南高等学校 教諭 秋田 敏博

パネリスト 青森市立新城中学校 教諭 前田 豊子

弘前市立弘前図書館 業務主任者(司書) 菊池 晃成

八戸市教育委員会 外部講師(学校司書) 円子 由佳

### (3) 乳幼児から小学生までの読書活動の推進

平成 29 年度に改訂した啓発小冊子「絵本でゆたかな親子の時間」(第 6 版)を印刷し、研修会やブックスタート等での活用を促進した。

#### 〔成果と課題〕

あおもりの中学生・高校生による『大切なあなたへ薦める青春の一冊』に応募した学校の担当教師からは、「読書感想文に苦手意識を持つ生徒は多いが、紹介文の字数とテーマは取り掛かりやすく、表現力向上の一環として取り組んでいる。」等の感想をいただいた。優秀作品集については、公立図書館や書店商業組合と連携し、特設コーナーを設置してもらうなど、その活用に取り組んでいるが、中学生・高校生の読書意欲向上につなげるため、あらゆる機会を通して広く周知する必要がある。

子どもの読書活動推進大会では、平成 29 年度あおもりの中学生・高校生による『大切なあなたへ薦める青春の一冊』コンクールにおいて最優秀賞を受賞した生徒による本の紹介を行い、子どもの読書活動推進に係る関係者に本事業の一環である取組を理解していただくことができた。パネルトークでは、「仲間同士での本を薦め合う活動のよさが感じられた。」、「様々な立場の方々の取組がよくわかり、とても参考になった。」等の感想が寄せられ、参加した関係者の子どもの読書活動に係る取組の参考とすることができた。

## いじめ防止キャンペーン推進事業 7,623 千円

#### 〔事業目的及び概要〕

いじめ防止の取組は、学校だけでなく、家庭や地域、関係機関が連携して取り組むことが重要であり、いかなるいじめも許さないという人権尊重の精神を育む体制を整備することが必要である。このため、地域からいじめ防止の意識啓発キャンペーンを幅広く展開し、学校におけるいじめ防止に向けた取組を支える事業である。

#### 〔事業内容及び結果〕

##### (1) いじめ防止 CM 原作コンクール

高校生を対象として、いじめ防止を呼びかけるテレビ CM の原作(絵コンテ)を募集し、優秀作品 6 本を選定、表彰した。

○募集期間：4/23(月)～5/21(月)

○応募数：87 作品(8 校)

○優秀賞受賞作品

県立弘前工業高等学校	3 年	浜中 美音	「“ヒーロー” じゃなくても」
※テレビ CM の原作に採用			
県立五所川原農林高等学校	1 年	白取 美優	「いじめといたずら紙一重」
県立五所川原農林高等学校	3 年	佐藤 紗羅	「なにげない一言が人を救う。」
県立青森商業高等学校	1 年	工藤 陽菜	「あなたの勇気で、救われる人がいる」
県立板柳高等学校	イラスト部		「踏み出した一歩で変わる未来。」
県立七戸高等学校	1 年	三浦 洋美	「LINE いじめ」

##### (2) いじめ防止標語コンクール

小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校に在籍する児童生徒並びに一般県民から、いじめ防止を訴える標語を募集し、優秀作品 6 本を選定、表彰した。

○募集期間：6/8(金)～9/6(木)

○応募数：8,710 点(小学校 5,951 点、中学校 2,440 点、高等学校 302 点、特別支援学校 16 点、一般 1 点)

○優秀作品

優秀賞	いじめより あいてのいいところ 見つけよう 悪口は スマホの中に 残ってる	青森市立造道小学校 3年 栃木 遙 五所川原市立五所川原第三中学校 3年 三上 玲菜
	傷つけた 自分が言われて 気が付いた 前向いて 私がいるよ だいじょうぶ 持ちたいな 止める勇気に 言う勇氣 聞かせてよ あなたの気持ち 受けとめる	柴田女子高等学校 1年 石岡 涼 八戸市立城下小学校 3年 橋 如花 むつ市立大平中学校 3年 笠嶋 怜 十和田市立三本木小学校 5年 下山 夏歩
審査員特別賞	やめようよ そのこえそろえば 大きなちから 辛いこと 誰かに言えば 自分が変わる	青森市立沖館小学校 4年 服部 貴樹 県立青森第二高等養護学校 2年 鎌田 彩乃

(3) コンクール優秀作品を活用したテレビCMの制作・放送

ア 平成 29 年度制作「いじめ防止標語テレビCM」を県内民放 3 局で放送。(4/5～4/14、5/8～5/19)

イ いじめ防止CM原作コンクール優秀作品(“ヒーロー” じゃなくても)を原案とし、CM制作。

県内民放 3 局で放送。(8/16～9/12)

ウ いじめ防止標語コンクール優秀賞作品を活用したテレビCMを制作。県内民放 3 局で放送。(1/11～2/6)

〔成果と課題〕

いじめ防止CM原作及び標語コンクールでは、児童生徒がCM原作や標語をつくることを通して、いじめ防止に向けた認識を深めることができた。また、CM放送では、取組を周知することにより、いじめ防止に向けた県民の意識の高揚につなげることができた。

今後は、標語コンクールを従来通り実施するが、優秀作品の中から 1 作品を原案として県内高校生に絵コンテを作成してもらい、メッセージ性の高いCMを制作する。また、CMの長さを 15 秒から 30 秒とすることで、ストーリー性を高め、よりいじめ防止への作者の想いを伝えるとともに、帰宅後の時間にも放送することで、これまでと異なる層の県民に視聴してもらい、いじめ防止の意識啓発を進めていく必要がある。

**障害者青年学級開設 1,000 千円**

〔事業目的及び概要〕

自立と社会参加を支援し社会性の向上を目指すことを目的として、集団学習や趣味の講座、障害者スポーツを通して他の卒業生や在校生、地域住民等と交流する機会を提供する事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 社会参加学習

開設校	回数	時間	参加者数	主 な 内 容
青森第二養護学校	6	16	151	運動会参加、ボウリング教室、二養祭参加、スポーツ体験、会報の発行
青森若葉養護学校	3	11	65	運動会参加、親睦旅行、陶芸体験、スポーツ体験
青森第一高等養護学校	3	9	79	運動会参加、スポーツ体験、めいせい祭参加
青森第二高等養護学校	4	18	267	同窓会総会(ダンス体験交流)、学校祭参加、地域ブロック活動(研修会、情報交換会、ニュースポーツ交流)、同窓生の集い(ボウリング)
県立盲学校	3	6	56	運動会参加、点字ブロック理解啓発活動、県盲祭参加
浪岡養護学校	6	9	181	運動会参加、DVD鑑賞会、同窓会・成人を祝う会、浪養祭参加
弘前第一養護学校	3	11	65	スポーツ体験、総会・親睦会、30周年記念行事参加、高等部祭参加
弘前第二養護学校	5	16	18	運動会参加、合同ねぶた祭り参加、同窓会参加、ふれあいコンサート、学習発表会鑑賞

開設校	回数	時間	参加者数	主 な 内 容
八戸第一養護学校	3	13	118	レクリエーション、夏を楽しむ会(成人を祝う会)、高等部祭見学
八戸第二養護学校	1	6	160	成人を祝う会(夏祭り、高校生ボランティアとの交流会)
八戸盲学校	6	18	70	スポーツ体験(ミニ運動会)、芸術教室(合唱)、学習発表会の参観・参加
森田養護学校	3	12	90	スポーツ体験、バス遠足(公共機関の利用)、森養祭参加
黒石養護学校	3	13	133	開級式、映画鑑賞、軽スポーツ(カローリング)、余暇の提供
七戸養護学校	3	13	182	同窓会総会、成人を祝う会、同窓会バス旅行(公共マナーの学習)
むつ養護学校	5	13	195	運動会参加、スポーツレクリエーション、福祉に関する情報等の共有、ふれあいボウリング大会
合計	のべ回数 57 回			のべ時間 184 時間 参加者数合計 1,830 名

## (2) スポーツ体験交流

参加対象：青年学級生と児童生徒や地域住民 等

実施日	開催場所	参加者数	内容
7/ 8(日)	森田養護学校	30 名	フライングディスク教室
7/28(土)	青森第二高等養護学校	119 名	ユニカール・ニュースポーツ教室
7/29(日)	青森第一高等養護学校	30 名	ファインボール・水泳教室
9/ 2(日)	黒石養護学校	54 名	カローリング教室
12/ 1(土)	青森若葉養護学校	20 名	ニュースポーツ教室(バルバレーほか)
12/15(土)	青森第二養護学校	50 名	ニュースポーツ教室(ボッチャほか)
合計	開催回数 6 回	参加者数合計 303 名	

### [成果と課題]

障害者青年学級は、卒業生が就労先での様子や卒業後の生活について近況を報告する場となっており、また、卒業生に就労や福祉、健康管理等の実生活に活用できる生きた情報を提供する場ともなっている。特別支援学校が卒業後のつながりや生きがい等を支える役割を担っているという点で、この事業はとても重要である。

スポーツ体験交流は、体を動かす機会が少ない卒業生においては、主体的に運動することができるため、とてもよい機会となっている。今後も卒業生の地域内の特別支援学校を拠点とし、地域住民との交流の機会を提供することで、卒業生の自立と社会参加を促せるよう取り組む必要がある。

### 障害者家庭教育学級開設 679 千円

障害のある児童生徒の父母等保護者の家庭教育支援を目的として、特別支援学校に家庭教育を開設する事業である。

#### [事業内容及び結果]

開設校	回数	時間	参加者数	主 な 内 容
青森第一養護学校	4	10	39	パン作り教室、リース作り教室、保護者施設見学会、講話(おむつの正しいはかせ方)
青森第二養護学校	4	9	64	こぎん刺し教室、テーブルマナー教室、だしの魅力や減塩を知る、先輩保護者からの講話
青森若葉養護学校	3	6	42	施設見学、マスコット作り、ハーバリウム作り



開設校	回数	時間	参加者数	主 な 内 容	
青森第一高等養護学校	6	19	78	エコクラフト教室、運動会参加、藍染教室、救命講習会、文化祭参加、トールペイント教室	
青森第二高等養護学校	4	8	113	花植え、環境整備、調理実習、二高養祭の参加、窯業体験	
県立盲学校	5	13	63	運動会参加、通学路清掃活動、点字ブロック理解啓発活動、県盲祭参加、進路講演会聴講	
青森聾学校	7	13	49	運動会グラウンド整備、昼食交流会、家族レクリエーション、東青地区合同研修会(窯業器作り体験)、青聾祭模擬店への協力、コサージュ作り	
浪岡養護学校	5	13	96	運動会参加、研修旅行、学校祭参加、調理活動、閉級式	
弘前第一養護学校	1	7	25	パステルアート、給食試食会	
弘前第二養護学校	7	20	87	運動会参加、保護者研修会(体験活動)、親子レクリエーション、特P連津軽地区合同研修会参加、弘二養祭鑑賞、弘前地区合同研修会(スポーツ体験)、クリスマス会参加	
弘前聾学校	8	14	230	手話学習会、親子レクリエーション、なかまの集い、特P連津軽地区合同研修会、弘前地区合同研修会(スポーツ体験)、進路についての学習会、創立70周年記念式典参加、生け花・フラワーアレンジメント教室	
八戸第一養護学校	4	10	40	給食に関する研修会、バス研修会、特P連二北三八地区合同研修会、二北三八地区合同研修会	
八戸第二養護学校	4	12	132	普通救命講習会、二北三八地区合同研修会、障害理解のための学習会、学校見学会(八戸高等支援学校)	
八戸盲学校	5	10	79	装飾作り・環境美化、進路学習会、スマホ・携帯安全教室、親子レクリエーション(ミニ運動会)	
八戸聾学校	4	11	58	運動会装飾、運動会参加、ドローン体験教室、奉仕作業(清掃・図書整理)	
森田養護学校	4	14	92	福祉制度についての研修、自然体験学習、弘前地区合同研修会、森養祭参加	
黒石養護学校	3	7	43	スポーツ体験(ストレッチ、ダンス)、コサージュ作り、黒養祭「お楽しみコーナー」の運営	
七戸養護学校	4	11	49	進路講話、性教育研修会、特P連二北三八地区合同研修会学校、調理活動	
むつ養護学校	4	11	273	園芸教室、スポーツレクリエーション、レクリエーション教室、父母学習会	
八戸高等支援学校	2	6	110	進路学習会、性教育学習会	
合計	のべ回数 88 回			のべ時間 224 時間	参加者数合計 1,762 名

#### [成果と課題]

同じ立場の保護者同士が、家庭教育学級の様々な活動を通して交流を深め、情報共有や情報交換をする機会となっている。また、子どもの進路や就労、卒業までに身に付けさせておきたい力などについて、先輩の保護者のアドバイスを受け、学べる好機となっている。課題としては、生徒の居住地が県全体であり、参加する保護者が交通事情などから固定化しているなどの状況がある。今後も、より多くの保護者に参加してもらえるような企画・内容等を検討し工夫していく必要がある。

**子どもたちの成長を支える「地域のチカラ結集」推進事業 5,562千円**

**〔事業目的及び概要〕**

地域学校協働活動の促進及び地域での家庭教育支援の充実を図ることを目的として、地域学校協働活動に係る教職員研修、地域学校協働活動推進員等の養成及びハンドブックの作成等を行うとともに、学校と家庭教育支援団体等との連携・協働の促進に係る研修会及びモデル地域における実践活動を行う事業である。

**〔事業内容及び結果〕**

**【取組1】地域のチカラで支える地域学校協働活動の促進**

(1) 地域学校協働活動の推進に係る研修

ア 学校と地域を結ぶ窓口となる教職員研修

地域学校協働活動の理解と今後の地域と学校の連携・協働について、小・中学校教職員へ活動に対する理解の促進を図るための研修会を開催した。

地区	期 日	場 所	参加者数
東青	8/ 3(金)	県総合社会教育センター	82名
西北	8/30(木)	五所川原市民学習情報センター	55名
中南	8/ 8(水)	弘前市総合学習センター	84名
上北	7/25(水)	公立小川原湖青年の家	82名
下北	7/24(火)	むつ来さまい館	33名
三八	7/12(木)	楽楽ホール(南部町)	99名

○講師

東青地区 尚綱学院大学 エクステンションセンター長 松田 道雄  
 西北・中南・三八地区 宮城教育大学 学長付特任教授 野澤 令照  
 上北・下北 国立教育政策研究所生涯学習政策部 総括研究官 志々田 まなみ

イ 地域学校協働活動推進員等養成講座(主管：各教育事務所)

地域学校協働活動の推進のため、地域学校協働活動推進員等(コーディネーター)が未設置の小学校区における地域学校協働活動推進員等を養成する講座を開催した。

地区	期 日	場 所	参加者数
東青	8/21(火)	県総合社会教育センター	17名
西北	9/11(火)	五所川原市民学習情報センター	24名
中南	9/ 6(木)	黒石市産業会館	55名
上北	9/19(水)	七戸中央公民館	36名
下北	8/28(火)	むつ合同庁舎	41名
三八	9/10(月)	八戸合同庁舎	25名

○講師

東青・中南地区 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター 大坪 直子  
 西北 弘前大学教育学部 准教授 松本 大  
 上北・下北・三八地区 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター 橋本 洋光

ウ 地域学校協働活動合同ワークショップの実施

地域学校協働活動関係者が一堂に会してワークショップを行うことにより、関係者の資質向上とネットワーク形成を図った。

地区	期 日	場 所	参加者数
東青	1/11(金)	県総合社会教育センター	33名
西北	11/15(木)	五所川原市民学習情報センター	25名
中南	12/ 3(水)	弘前市中央公民館相馬館	25名
上北	11/ 8(金)	七戸中央公民館	26名
下北	1/22(火)	むつ来さまい館	34名
三八	11/12(月)	南部町ゆとりあ	22名

○講師

東青・中南・下北地区 大槌町教育委員会教育専門官 菅野 祐太

西北・上北・三八地区 NPO法人スクールアドバイザーネットワーク事務局長 井上 尚子

(2) 地域学校協働活動ハンドブックの作成

県生涯学習課を事務局とする作成委員会を組織し、市町村における地域学校協働本部の立ち上げや地域学校協働活動の充実を図るためのハンドブック(手引書)を作成した。

【取組2】地域のチカラで家庭を支える新たな連携・協働の促進

(1) 「地域のチカラで家庭を支える新たな連携・協働」スタートアップ研修会の実施

学校と家庭教育支援団体等の連携・協働について共通理解し、支援の仕組みや体制づくりのノウハウ等について理解することを目的とした研修会を開催した。

地区	期日	場所	参加者数
三八 上北	5/31(木)	八戸市公民館	34名
東青 西北 中南	6/1(金)	県総合社会教育センター	39名
下北	6/2(土)	むつ市中央公民館	24名

○講師

東青・西北・中南・上北・三八地区

大阪府立大学 教授 山野 則子 泉大津市教育委員会 指導主事 長谷川 慶泰

泉大津市教育委員会家庭教育支援チーム リーダー 芦澤 万里子

下北地区

追手門学院大学 教授 三川 俊樹 男鹿市教育委員会 主事 武内 春香

男鹿市教育委員会家庭教育支援チーム リーダー 秋山 協子

(2) モデル地域における取組の実践

県内6市町村に実行委員会を設置し、委託により学校と家庭教育支援団体、健康福祉機関等の連携・協働実践モデルの構築に取り組んだ。

	市町村名	実行委員会・構成	主な活動
1	青森市	委員長 長尾 慶子 (NPO法人いのちの教育ネットワーク代表) スクールカウンセラー、短期大学講師、教育委員会職員等 計7名	市内小学校の保護者を対象に、家庭教育支援情報紙及びアンケート用紙を送付し、支援が必要な家庭の数や状況、来年度の効果的な取組内容について把握する。
2	今別町	委員長 平山 治門 (今別町中央公民館館長) 主任児童委員、幼稚園長、教育委員会職員等 計7名	親子ふれあい体験教室(料理教室及び体操教室)を開催し、参加した保護者の子育て等の相談に応じる。 毎月1回、主に幼児期から小学校低学年までの児童及びその保護者を対象とした「ホットケーキサロン」を開き、参加した保護者の子育て等の相談に応じる。
3	鱒ヶ沢町	委員長 渋谷 貴子 (鱒ヶ沢町家庭教育支援チーム代表) 地域学校協働活動推進委員、主任児童委員、教育委員会職員等 計6名	世界遺産白神山地を有する町の特徴を活かし、子ども達や保護者に、木製の積木に触れる機会を提供する木育事業を通じ、親子の交流を図る。 学校と連携・協働して家庭教育講演会を開催し、家庭でのキャリア教育や家庭教育の支援を図る。 また、参観日に空き教室を活用し、保護者の育児相談や家庭教育に関する相談などにも応じる。
4	野辺地町	委員長 前田 智子 (ちーむ野open代表) 小学校長、社会福祉士会理事、小学校PTA、町議会議員等 計8名	6回のワークショップを開催し、多くの子育て世代が抱える問題について、参加した子ども、保護者、地域の方々との様々な体験・交流をとおして、共に学び、考え答えを探していく場を提供する。また、そこから今後、どのような手助けが必要なのか課題を探り、問題解決を実践する。

5	佐井村	委員長 内田 美和子 (長後公民館館長) 子ども会育成会、小学校PTA、教育委員会職員等計6名	親子体験教室(クリスマス会、料理教室等)を開催し、参加した幼児期や小学校までの児童及びその保護者を対象として、子育て等の相談に応じる。
6	八戸市	委員長 中村 和貴子 (八戸市城北家庭教育支援チーム代表) 小学校長、教育委員会職員、小学校PTA、主任児童委員、スクールソーシャルワーカー等 計8名	親子体験教室(地域で行われている五穀豊穡祭)を、児童とその保護者を対象に実施し、参加した保護者の子育て等の相談に応じる。 毎週火曜日に城北小学校内家庭教育支援チーム室において、保護者からの相談に対応する。

#### [成果と課題]

地域学校協働活動を推進するために、県内6地区において3つの研修会を開催した。研修をとおして、学校と地域の連携・協働の意義や、地域全体で子どもを育むことの必要性について理解が図られた。

引き続き、関係者に地域学校協働活動のさらなる理解の促進を図るとともに、地域学校協働本部未設置の市町村に対して、設置についての啓発を行っていく必要がある。

スタートアップ研修会の実施により、参加者に家庭教育支援団体と学校等との連携の重要性について理解が図られた。また、県内6市町村において実行委員会を立ち上げ、モデル事業を実施するとともに、合同の連絡会議を実施したことで、実行委員会を横断して情報共有をすることができた。

実行委員会と学校との連携・協働をさらに強化していくために、県は実行委員会委員またはオブザーバーとして広く学校関係者の参画をすすめていく必要がある。また、スクールソーシャルワーカーがいない地域においては、地域の実情に応じて、実行委員会委員等の家庭教育支援団体関係者が同様の役割を担う在り方についても議論していく必要がある。

### 地域学校協働活動推進事業(県事業) 2,115千円

#### [事業目的及び概要]

地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生する地域学校協働活動を推進することを目的として、より多くの地域住民等の参画による多様な活動を継続的・安定的に実施する体制づくりを支援する事業である。

#### [事業内容及び結果]

##### (1) 地域学校協働活動推進委員会の開催

県内の地域学校協働活動の推進について、総合的な在り方の検討を行うとともに、全児童の放課後対策の諸問題について協議し、各市町村の放課後子ども総合プランの推進を支援する。

##### ア 地域学校協働活動推進委員会の開催

- ・日時 11/8(木)13:00～15:30
- ・場所 県警察本部教育委員会室
- ・委員

No.	氏名	所属等	備考
1	松 本 大	弘前大学教育学部 准教授	会長
2	小 川 あゆみ	八戸学院大学短期大学部 幼児保育学科 准教授	副会長
3	繁在家 康 文	横浜町立横浜小学校 校長	
4	丹 野 隆 之	八戸市立江陽中学校 校長	
5	外 崎 浩 司	青森県PTA連合会 会長	
6	伊 藤 尚 三	青森市立金沢小学校 放課後子ども教室コーディネーター	
7	福 田 文 子	五戸町放課後子ども教室推進事業コーディネーター	
8	福 士 奈緒美	板柳町地域学校協働本部コーディネーター	
9	森 岩 樹	青森県教育支援プラットフォーム中南地区実行委員会委員長	
10	野 呂 美奈子	NPO法人子どもネットワークすてっぷ 副代表理事	

11	吉田 由佳子	むつ市教育委員会生涯学習課 課長	
12	千葉 大 慎	弘前市学校づくり推進課 主査	
13	佐藤 廣 文	つがる市福祉部福祉課 課長	
14	新谷 陽 子	七戸町城北児童センター 所長	
15	中田 美 央	藤崎中央小学校学童クラブ 学童保育支援員	

イ 放課後子ども総合プラン市町村担当者連絡会議

- ・日時：1/8(火)10:00～11:30
- ・場所：県立図書館集会室・研修室
- ・参加者：市町村放課後子ども総合プラン担当者(社会教育主管課及び福祉部局)

(2)研修会の実施

ア 地域学校協働活動推進員等研修(主管:県総合社会教育センター)

地域学校協働活動推進員等の資質向上を図るとともに、他の事業関係者との情報交換・情報共有を図る。

- ・日時及び会場:5/25(金)10:00～15:00 県総合社会教育センター  
6/ 1(金)10:00～15:00 七戸中央公民館

- ・対象:地域学校協働活動推進員、放課後子ども教室コーディネーター及び地域学校協働活動本部のコーディネーター等

イ 放課後子ども総合プラン指導員等研修(主管:各教育事務所)

- ・目的:放課後対策事業等に関わる地域人材を対象に、学習・体験活動等の企画・実施方策、安全管理方策等の資質向上を図るための講義や、他の事業関係者等との情報交換・情報共有を図るため、合同の研修会を開催した。

- ・期日:前後期各1日(全12回)

【前期】

地区	期日	講師	参加者数
東青	6/13(水)	NPO法人青森県防災士会 理事 相馬 多一郎	188名
西北	6/ 8(金)	県発達障害者支援センター「ステップ」 センター長 町田 徳子	119名
中南	7/ 3(火)	弘前大学教育学部 教授 長南 幸安	85名
上北	6/12(火)	青森県レクリエーション協会 副会長 高橋 昌樹	131名
下北	6/12(火)	NPO法人発達障害サポートセンターYou Me 副理事長 前田 淳裕	77名
三八	5/25(金)	弘前大学教育学部 特任助教・教職キャリア支援コーディネーター 齋藤 厚	103名

【後期】

地区	期日	講師	参加者数
東青	9/20(木)	NPO法人子どもネットワーク・すてっぷ 代表理事 奈良 陽子	131名
西北	10/ 4(木)	青森県立三沢航空科学館 職員	112名
中南	9/12(水)	NPO法人いのちの教育ネットワーク 理事長 長尾 慶子	80名
上北	10/ 2(火)	日本赤十字社 青森県支部 事業推進課長 吉川 靖之	147名
下北	10/17(水)	青森県立三沢航空科学館 職員	65名

三八	10/ 2(火)	社会福祉法人豊寿会青森県発達障害者支援センター「Doors」 センター長・社会福祉士 分枝 篤史	126名
----	----------	---	------

・対象:地域学校協働活動推進員等、教育活動推進員及び教育活動サポーター、放課後児童指導員、土曜学習推進員及び土曜学習サポーター等

ウ 地域学校協働活動コーディネーターアドバイザーの配置

県に地域学校協働活動に係るコーディネーターアドバイザーを配置し、市町村教育委員会との連絡調整、地域学校協働活動の理解促進等を行った。

#### 【成果と課題】

放課後子ども総合プランに係る研修会には、県内6地区で延べ1,300名以上の参加があり、指導員等のニーズも高く、その資質向上に資する研修となっている。放課後子ども総合プランの推進に向け、引き続き、健康福祉部と連携しながら、市町村において円滑な取組促進が図られるよう経費の一部を補助し、支援していく必要がある。

### 放課後子ども教室推進事業費補助 61,989千円

#### 【事業目的及び概要】

子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進することを目的として、放課後の子どもたちの安全・安心な居場所を設け、スポーツ・文化活動等の体験活動、地域住民と交流活動等の取組を実施する市町村に対し、また、子どもたちの土曜日等の教育活動を充実することを目的として、民間団体等の多様な経験や技能を持つ外部人材等の参画により、特色・魅力のある教育プログラムを実施する「外部人材を活用した教育支援活動」の取組を実施する市町村に対し、県が補助をする事業である。

#### 【事業内容及び結果】

「放課後子ども教室」及び「外部人材を活用した教育支援活動」の取組を行う市町村(中核市の青森市及び八戸市を除く)に補助金を交付する。【国庫補助1/3、県補助1/3、市町村負担1/3】

・放課後子ども教室:22市町村88教室

平内町 外ヶ浜町 今別町 深浦町 中泊町 鶴田町 弘前市 平川市 藤崎町 大鰐町  
十和田市 おいらせ町 六戸町 横浜町 東北町 むつ市 大間町 風間浦村  
佐井村 三戸町 五戸町 階上町

・外部人材を活用した教育支援活動:3市町6箇所

今別町 中泊町 弘前市

#### 【成果と課題】

放課後子ども教室は、中核市の青森市と八戸市を含めると24市町村において行われ、地域の特性を生かしたスポーツ・文化活動等の体験活動、地域住民との交流等が実施されている。引き続き、市町村での円滑な取組促進が図られるよう、経費の一部を補助し、支援していく必要がある。

### 地域学校協働活動推進事業費補助 6,700千円

#### 【事業目的及び概要】

幅広い地域住民等の参画により、地域と学校が連携・協働しながら地域全体で子どもの成長を支え、地域を創生する活動(地域学校協働活動)を推進することを目的として、地域学校協働活動に取り組む市町村に対し、県が補助をする事業である。

#### 【事業内容及び結果】

地域学校協働活動及び今後の地域学校協働活動の契機となる学校支援活動等の取り組みを行う市町村(中核市の青森市及び八戸市を除く)に補助金を交付する。【国庫補助1/3、県補助1/3、市町村負担1/3】

9市町27本部(30小学校、11中学校)

今別町 五所川原市 鱒ヶ沢町 中泊町 板柳町 平川市 三沢市 横浜町 五戸町

#### 【成果と課題】

引き続き、市町村での地域学校協働活動の取組促進が図られるよう、経費の一部を補助し、支援していく必要がある。

**あおもり家庭教育支援総合事業 2,766千円**

**〔事業目的及び概要〕**

社会や家庭を取り巻く状況の変化に伴い、家庭教育を行うことが一層困難になっていることを踏まえ、保護者が安心して家庭教育を行う事を目的として、今日的課題に対応した家庭教育の取組を推進するための協議を行い、地域全体で家庭教育を支援していく気運を高めるとともに、保護者の学びの機会の充実や支援のネットワークづくり等を行う事業である。

**〔事業内容及び結果〕**

(1) 親の学びを支援する「あおもり家庭教育アドバイザー」の派遣

地域における家庭教育支援の活性化を図るため、あおもり家庭教育アドバイザーをPTA等の要請に応じて派遣した。

	実施日	実施機関	研修会等の名称 (参加者数)	学習プログラム	派遣 アドバイザー
1	6/7 (木)	むつ市ファミリー・サポート・センター	むつ市ファミリー・サポート・センター研修会(10名)	「地域でつながるために～きっかけを大切に～」 (支援者編)	中川 めぐみ
2	7/19 (木)	青森工業高等学校	平成30年度東青地区研修・母親委員会研修会(50名)	「思春期の子どもとどう関わる？ ～親子のつながり～」 (中・高校生編)	沼田 久美 秋元 美香子 滝口 小百合
3	11/13 (火)	蓬田村教育委員会	家庭教育講座(20名)	「子ども同士のトラブル、SOS ～ルールを教える～」 (乳幼児・小学生編)	松林 恵公子
4	11/15 (木)	外ヶ浜町教育委員会	就学児健診を活用した子育て講座(22名)	「わが子の自立を願うなら～自分のことは自分で～」 (乳幼児・小学生編)	工藤 清子
5	12/4 (火)	階上町立大蛇小学校父母と教師の会	平成30年度階上町立大蛇小学校家庭教育学級(40名)	「わが子の自立を願うなら～自分のことは自分で～」 (乳幼児・小学生編)	安ヶ平 敦志
6	12/4 (火)	柏木小学校PTA	PTA主催講演会(60名)	「わが子がイキイキしてる！ ～体験活動のススメ～」 (乳幼児・小学生編)	工藤 清子 芳賀 環子
あおもり家庭教育アドバイザー派遣合計回数：6回					
同 派遣人数：9名					
同 派遣した研修会等の参加者数計：202名					

(2) 読み聞かせの大切さを伝える「親子ふれあい読書アドバイザー」の養成

青森県読書団体連絡協議会への委託により、読み聞かせの効果や家庭での読み聞かせの大切さを伝える「親子ふれあい読書アドバイザー」の養成と、読み聞かせ実践者のスキルアップを図る研修会を県内6地区で開催し、合計214名が受講した。そのうち、親子ふれあい読書アドバイザーを新たに18名養成、登録した。(累計登録者数：462名)また、啓発小冊子「絵本でゆたかな親子の時間」の提供は29団体からの申込みがあり、6,984冊提供した。併せて1件の講師派遣の要請があった。

地区	内容
東青	【期日】10/6(土)【会場】今別町中央公民館【参加者数】14名【新規登録者数】1名 【内容】○読み聞かせ研修会 講話：長く読み聞かせ活動してきた中での学びとこれから 講師：J P I C 読書アドバイザー 高嶋 敬子 ○親子ふれあい読書アドバイザー研修 講師：こでまりの会 工藤 清子
西北	【期日】6/8(金)【会場】深浦小学校【参加者数】43名【新規登録者数】3名 【内容】○読み聞かせ研修会 テーマ：絵本大好き おはなし大好き！ 講師：秋田県歌とお話の会「グループかぜ」代表 谷 京子

	○親子ふれあい読書アドバイザー研修 講師：津軽地区読書推進運動連絡会 会長 今井 千都子
中南	【期日】10/18(木)【会場】平川市文化センター【参加者数】50名【新規登録者数】なし 【内容】○読み聞かせ研修会 テーマ：児童書の世界へもう一度～子供の本を大人の目で読むと～ 講師：佐藤 きむ(元弘前大学教育学部助教授) ○親子ふれあい読書アドバイザー研修 テーマ：失敗から学ぶ事とは～親子ふれあい読書アドバイザーの実際～ 講師：津軽地区読書推進運動連絡会 理事 岩崎 眞里子
上北	【期日】10/18(木)【会場】十和田市民文化センター【参加者数】37名【新規登録者数】3名 【内容】○読み聞かせ研修会 テーマ：ことばが育つ 心がひろがる絵本を楽しもう～児童文化財と言語表現～ 講師：森のお話し会主宰・盛岡誠桜高等学校講師 附田 清子 氏 ○親子ふれあい読書アドバイザー研修 講師：語りの会「こま草」 阿部 智留恵
下北	【期日】12/9(日)【会場】むつ市立図書館【参加者数】17名【新規登録者数】1名 【内容】○読み聞かせ研修会 講師：親子ふれあい読書アドバイザー 越膳 昌子 ○親子ふれあい読書アドバイザー研修 講師：親子ふれあい読書アドバイザー 越膳 昌子
三八	【期日】11/15(木)【会場】八戸市根城公民館【参加者数】53名【新規登録者数】10名 【内容】○読み聞かせ研修会 講義：「親子ふれあい読書アドバイザーとしての実践」 講師：J P I C読書アドバイザー 高嶋 敬子 ○親子ふれあい読書アドバイザー研修 教養講座「作品をより深く、理解しよう！ ～鈴木喜代春(県出身)・児童文学への想い～ 講師：青森県近代文学館 文学専門主査 武永 佐知子

### (3)家庭教育応援フェスタの開催

子どもの生活習慣に関する講演会、親子での体験型イベント及び様々な家庭教育支援に関する情報提供を通して、家庭教育についての理解と認識を深め、地域全体で家庭教育を支援する意義や必要性についての普及・啓発を行った。

○期日：10/8(月)

○場所：弘前市民文化交流館

○参加者数：延べ363名

○内容

(ア) 講演「なぜ『早寝早起き朝ごはん』なのか？～今日からできる親子での実践～」

講師 陰山ラボ代表 陰山 英男

(イ) ステージイベント 心と体の元気のヒミツは「早寝早起き朝ごはん」

出演 「早寝早起き朝ごはん」キャラバン隊

(ウ) パネルトーク 「地域のチカラで子ども達の今と未来を支える～「早寝早起き朝ごはん」運動を通して～」

コーディネーター 陰山 英男

パネリスト 鶴田町立菖蒲川小学校校長 福澤 諭

弘前市立第三中学校PTA会長 工藤 貴子

NPO法人子どもネットワーク・すてっぷ副代表理事 野呂 美奈子

### (4)祖父母向け保育者研修会の開催

家庭教育をサポートする祖父母を対象として、祖父母が読み聞かせるのに適したおすすめの絵本の紹介や絵本の選び方、絵本を通じた孫との交流や絵本の読み聞かせ方等を学んだ。



地区	日時	場所	参加者数	内容
西北	9/ 4(火)10:00～14:40	中泊町総合文化センター	210名	講演「人生をより深く生きる」 読書習慣へ誘う「読み聞かせ」
三八	11/22(木)13:00～15:00	三戸町中央公民館ホール	90名	講師：西村 恵美子(青森県読書団体理事)

(5)青森県家庭教育支援ネットワーク形成研修会の開催

社会全体で家庭教育を支援するため、家庭教育支援に関わる人々が一堂に会し、家庭教育の今日的な課題等について学習するとともに、家庭教育支援関係者等と市町村職員のネットワークを広げた。

○期日：1/8(火)

○場所：県総合社会教育センター

○参加者数：85名

○内容

(ア) 講義：「親の主体性を生かした家庭教育(子育て)支援～貝塚子育てネットワークでの事例を通して～」

講師：村田 和子(和歌山大学地域活性化総合センター教授)

(イ) 事例発表：「鱒ヶ沢町家庭教育支援チームの取組」

事例発表者：渋谷 貴子、岩谷 道代(鱒ヶ沢町家庭教育支援チーム)

(ウ) 情報交換会：「様々な主体とつながるために私たちができること、すべきことは何か」

講評：村田 和子(和歌山大学地域活性化総合センター教授)

【成果と課題】

「あおり家庭教育アドバイザー」の派遣においては、200名を超える参加者がいたが、回数が6回と少なかった。31年度から派遣業務に係る部分は県総合社会教育センターで実施することとなるので、この部分も含め、市長村教育委員会や各学校のPTA研修会等で活用促進について周知を工夫し、派遣件数を増加させる手立てを講じる必要がある。

啓発小冊子「絵本でゆたかな親子の時間」の提供については、今年度改訂版の発行により、29件6,984冊の提供希望があったが、アドバイザーの派遣が1件と少なかった。「親子ふれあい読書アドバイザー」の新規登録はあるものの利用が少なく、派遣件数を増加させる手立てを講じる必要がある。

家庭教育応援フェスタは、多くの来場者があり、家庭教育の重要性について啓発することができたが、講演会部分への参加者が少なく、イベントエリアによるばらつきが見られた。31年度は多くの親子が各プログラムに参加できるような内容に見直しの必要がある。

ネットワーク形成研修会は、家庭教育支援者の他、教員の参加も多く、多様な家庭教育支援に関わる人のネットワークを形成することができた。31年度以降はプログラムを見直し、多くの参加者が情報共有できる研修会とする。

**若者の社会参加促進事業 812千円**

【事業目的及び概要】

若者の社会参加を促進することを目的に、若者団体等が企画立案する地域の課題等を踏まえたモデル事業を実施する事業である。また、ひきこもりやニート等の課題を抱える若者の社会参加を促進することを目的として、自立を支援する「自然体験・交流塾」を実施する事業である。

【事業内容及び結果】

(1)若者の社会参加促進事業プランの実践

公民館等の社会教育施設を拠点に、若者団体等の地域活動への参加や若者同士の関わり、地域のつながりを形成するモデル事業プランを実施した。

市町村	月日	会場	内容	講師	参加者数
むつ市	9/1 (土)	大安寺	講演「映画監督川島雄三」、「菊地成章と村林源助の下北歌紀行」の他、長年にわたりむつ下北地区の郷土の歴史や人物を研究してきた故郷海健太郎を偲んでのトークセッション、唐ひづるによる太宰治の作品の朗読などを行った。	高瀬 厚太郎 (映画監督川島雄三を偲ぶ会) 佐藤 ミドリ (むつ市文化財保護審議委員) 唐 ひづる (朗読パフォーマー)	70名

新郷村	11/18 (日)	HLS弘前	弘前市へ出向き、弘前大学講師野口拓郎による街づくりに関する講義を行った。また、弘前路地裏探偵団の街歩きに参加し、団長鹿田智崇から街づくりについて実地指導を受けた。	野口 拓郎 (弘前大学COC推進室助教)	10名
平川市	11/25 (日) 12/1 (土) 12/8 (土)	平川市生涯学習センター 平川市文化センター	YouTuberやwebライターといった肩書きを持つ講師を迎え、地域素材を取材する手法や動画撮影のコツを学び、「地域の魅力」と題して、平川市の人、モノ、情報を動画コンテンツとして作成した。	渡部 智絵 (弘前中央高等学校校務助手)	10名

## (2) 困難を抱える子ども・若者支援

高等学校(通信制)に在籍している不登校生徒やひきこもり・ニート等の課題を抱える状況にあり、社会とのつながりへのきっかけを求めている若者(16歳～概ね40歳)を対象に、1日(日帰り)及び1泊2日の自然体験・交流塾を、八戸地区及び弘前地区でそれぞれ実施した。

### <八戸地区>

#### 第1回自然体験・交流塾

○期日：7/7(土) ○会場：種差少年自然の家 ○参加者数：27名

○内容：アイスブレイク、野外炊事 他

#### 第2回自然体験・交流塾

○期日：8/18(土)～19(日) ○会場：種差少年自然の家、階上岳

○参加者数：2名

○内容：アイスブレイク、種差少年自然の家での就労体験(刃物の刃研ぎ、枝切り等)、登山、宿泊体験 他

### <弘前地区>

#### 第1回自然体験交流塾

○期日：7/21(土) ○会場：岩木青少年スポーツセンター ○参加者数：2名

○内容：アイスブレイク、野外炊事 他

#### 第2回自然体験交流塾

○期日：9/15(土)～16(日) ○会場：岩木青少年スポーツセンター、岩木山観光りんご園

○参加者数：4名

○内容：アイスブレイク、岩木山観光りんご園での就労体験(りんごの葉取り等)、ノルディックウォーク、宿泊体験 他

### 【成果と課題】

若者の社会参加促進事業プランでは、若者の視点で地域の良さに気付くことができた。又、主催の若者団体が新しい事業を実践するための企画力・立案力等を高めながら、独自に次年度以降も継続して実施していくための見通しをもつことができた。今後は、地域課題の解決に目を向けた活動計画の作成に助言を行いながら、事業の実施に当たっては、より多くの来場者を得やすい場所(公共交通機関の利用がしやすい等)での開催を検討させたり、来場者数を増やすための方法を検討させたりしていくことが必要がある。

「自然体験・交流塾」では、野外炊事や就労体験、登山、ノルディックウォークなど、多様な体験活動をとおして、社会とのつながりへのきっかけを求めている若者のコミュニケーション力の向上を図ることができた。また、弘前・八戸の若者サポートステーションを中心に、支援団体と連携・協働することにより、参加者にとって支援団体職員と一緒にいることによる心理的負担の軽減、多様な人とのコミュニケーションをとる機会の確保、自己肯定感を得る活動機会を設定することができた。その一方で、宿泊体験に抵抗を感じて参加を見送った対象者が数名いたことから、31年度は宿泊体験の設定を行わずに開催する。

# 総合社会教育センター

大学生とカタル！キャリアサポート形成事業 1,013 千円

## 〔事業目的及び概要〕

中学生及び高校生が自らの夢に向かって主体的に行動できるように、コミュニケーション、コーチング等の研修を修了した大学生からの働きかけにより、中・高校生のやる気や意欲を引き出し、チャレンジする心を育むためのワークショップを計画的に実施する事業である。

## 〔事業内容及び結果〕

(1) ワークショップ「キャリアサポ」、「J r. キャリサポ」の実施

- ア 実施中学校、高等学校数 21 校
- イ 参加生徒数 高校生 2,784 名、中学生 144 名
- ウ のべ参加大学生数 856 名

No.	期日	実施校	対象高校生	参加大学生
1	6/ 9(土)	県立青森南高等学校	1 学年(6 クラス 240 名)	75 名
2	6/30(土)	青森山田高等学校	1 学年(1 クラス 25 名)	18 名
3	7/ 7(土)	東奥義塾高等学校	1 学年(2 クラス 80 名)	34 名
4	7/14(土)	県立弘前南高等学校	1 学年(6 クラス 240 名)	72 名
5	8/20(月)	県立三戸高等学校	2 学年(2 クラス 60 名)	25 名
6	8/22(水)	県立田子高等学校	1・2 学年(2 クラス 30 名)	17 名
7	8/22(水)	県立野辺地高等学校	1 学年(2 クラス 80 名)	34 名
8	8/24(金)	県立青森西高等学校	1 学年(6 クラス 240 名)	74 名
9	8/31(金)	青森市立荒川中学校	全学年(7 クラス 151 名)	35 名
10	9/ 3(月)	県立金木高等学校	1 学年(1 クラス 35 名)	11 名
11	9/ 3(月)	県立三沢商業高等学校	2 学年(4 クラス 160 名)	40 名
12	9/ 5(水)	県立田名部高等学校	1 学年(5 クラス 200 名)	45 名
13	9/ 7(金)	県立弘前中央高等学校	1 学年(6 クラス 240 名)	56 名
14	9/10(月)	県立青森商業高等学校	2 学年(6 クラス 240 名)	50 名
15	9/12(水)	県立黒石高等学校	1 学年(4 クラス 160 名)	43 名
16	9/14(金)	県立五所川原農林高等学校	2 学年(4 クラス 140 名)	28 名
17	11/ 3(土)	県立浪岡高等学校	1 学年(2 クラス 70 名)	33 名
18	11/17(土)	八戸工業大学第二高等学校	1 学年(7 クラス 255 名)	58 名
19	3/ 4(月)	県立青森中央高等学校	1 学年(5 クラス 196 名)	52 名
20	3/ 5(火)	県立五戸高等学校	1 学年(2 クラス 49 名)	18 名
21	3/ 5(火)	県立七戸高等学校	1 学年(4 クラス 128 名)	38 名

(2) キャリア形成の支援

- ア 大学生会議(5/6(日)、7/15(日)、12/15(土)、3/18(月))4 回
- イ 実施校担当者等研修会(11/2(金)) 参加者 13 校 14 名  
講 演「地域で活動する高校生を支える“伴走者”が大切にしている 3 つのポイント」  
ワークショップデザイナー 相内 洋輔  
事例発表「大学生とカタル！キャリアサポート形成事業担当者等研修会 五戸高校の事例」  
発表者 県立五戸高等学校 教諭 竹ヶ原 優子  
事業説明 県総合社会教育センター職員

ウ 大学生対象研修会の開催

- 基本研修(計 6 回) 受講者数 163 名
- ワークショップ演習(計 5 回) 受講者数 153 名
- 中学校対応研修(計 6 回) 受講者数 36 名
- 応用研修(計 5 回) 受講者数 29 名

## 〔成果と課題〕

今年度は高等学校 20 校、中学校 1 校の計 21 校でワークショップ「キャリアサポ」を実施した。現在、「キャリアサポ」は高校生一人一人が自己の将来について深く考える一つのきっかけ作りの場となってい

る。今年度、中学校においてワークショップを初めて開催したが、中学生が将来に対する幅広い職業観や進路選択について幅広く考え、自らの将来に対し、課題解決の方向を導き出す姿勢が見受けられるなど非常に良い取組であった。今後も、各校の実態や要望に合わせて、教育効果の高いワークショップが維持できるように、研修内容の精選や大学生の参加しやすい環境づくりに向けて努めていく必要がある。

### 高校生スキルアッププログラム推進事業 217 千円

#### 〔事業目的及び概要〕

高校生の知識や経験の幅を広げ、社会の変化に柔軟に対応し、たくましく生きるための様々なスキルの向上を図るため、学校外における学習への積極的な取組を推進する事業である。

#### 〔事業内容及び結果〕

(1) 高校生スキルアッププログラム(スキルアップ認定証・奨励証の交付)の運営

(2) 高校担当教員対象研修会の実施

「担当者等研修会」の開催(大学生とカタル! キャリアサポート形成事業と共催)

○期日: 11/2(金)

○場所: 県総合社会教育センター

○対象: 高校生スキルアッププログラム担当教員

○参加者: 13校 14名

○内容: 事例発表「社会の中で自分の立ち位置を自覚させる～スキルアッププログラムの活用～」

発表者 八戸工業大学第二高等学校 教諭 田代 誠

(3) 評価サービス

参加校・参加生徒数・認定証および奨励証交付者数

地区	参加校数	参加生徒数	認定証交付者数	奨励証交付者数
東青	6校	227名	2名	0名
西北	0校	0名	0名	0名
中南	0校	0名	0名	0名
上北	3校	176名	0名	0名
下北	2校	592名	16名	0名
三八	5校	1,733名	28名	0名
合計	16校	2,728名	46名	0名

(4) 県民カレッジとの連携

ア 事業連携によるあおもり県民カレッジ新規入学者数 1,092名

イ 事業連携によるあおもり県民カレッジ認定証等交付者数

100単位認定証 1名、200単位奨励証(学士賞) 1名

#### 〔成果と課題〕

昨年度から、未登録校への働きかけ等事業周知を効果的に行った結果、今年度は、参加校数、認定証交付者数とも昨年度を上回ることができた。認定証を交付された高校生の提出レポートを分析すると、コミュニケーション能力、自主性、社会性及び学習意欲等の向上が見られ、職業や地域等について新たな認識を得た生徒が多かった。また、あおもり県民カレッジ認定証及び奨励証を交付された高校生が現れたことにより、スキルアッププログラムに取り組む高校生の励みや意欲の向上につながった。

今後は、奨励証交付者数を拡大するため、奨励証の取得による利点等について今以上に広報・周知等を積極的に行う必要がある。また、認定証交付を目指す生徒が必要な単位数を取得するために、どのように3年間の学校外学習を継続していくべきかについて、高等学校と連携して模索する必要がある。

### 青森で生きる未来人財育成事業 1,406 千円

#### 〔事業目的及び概要〕

青少年の自己肯定感や主体性を高めることを目的に、講座(中学生・高校生・大学生対象)と、演習「寺子屋」(小学生・中学生・高校生・大学生対象)を実施する事業である。特に、演習「寺子屋」は、地域の公民館・児童館を会場とし、異年齢交流(学習やレクリエーション)などの企画立案・運営を行い、講座で学んだことを実践する機会とする。

## (1) 講座

○対象地域：東青地域(青森市)、上北地域(七戸町)、三八地域(八戸市)

○延べ受講者数：119名

○参加学校数：20校(大学7校、高校11校、中学校2校)

講座名	期日	会場	人数	内容・講師等
第1講座	5/27 (日)	県総合社会教育センター	14名	講義「児童への接し方について」 演習「ネイチャーゲーム」 講師 県総合社会教育センター職員
	6/17 (日)	八戸市立吹上公民館	21名	講義「寺子屋の目的」 「ボランティアの意義」 演習「私たちが目指す寺子屋を考える」 「寺子屋運営に必要なこと①」 講師 県総合社会教育センター職員
	6/10 (火)	七戸町立七戸南公民館	10名	
第2講座	12/2 (日)	県総合社会教育センター	10名	演習「子どもに隠れた困り感」 講師 レスタ大学生
	7/8 (日)	八戸市立吹上公民館	12名	演習「仲間づくり～アイスブレイク～」 講義「コミュニケーション論」 演習「寺子屋運営に必要なこと②」
	7/1 (日)	七戸町立七戸南公民館	7名	「寺子屋運営シミュレーション」 講師 県総合社会教育センター職員
夏休み 特別講座	8/5 (日)	県総合社会教育センター	12名	テーマ 自分らしく生きる指針を見つけよう！ 講師 合同会社ファミリーコンパス協同代表 渋谷 聡子
第3講座	9/1 (土) ～2 (日)	県総合社会教育センター・青森公立大学国際交流ハウス	17名	テーマ 高校生レストランの仕掛け人と語り合う1泊2日～ 君たちの可能性は無限大 講師 未来の大人応援プロジェクト代表理事 皇學館大学教授 岸川 政之
第4講座	9/30 (日)	県総合社会教育センター	16名	【実践活動】 (1) カレーライス販売体験 (2) フェア出展団体によるお仕事体験 (3) 出展ブース見学

## (2) 演習(寺子屋)

○登録者数

	校種別	大学生等		高校生		中学生		小学生		合計
	性別	男	女	男	女	男	女	男	女	
青森	人数	10	12	10	17	1	6	25	28	109
	合計	22		27		7		53		
八戸	人数	0	0	6	16	0	1	12	24	59
	合計	0		22		1		36		
七戸	人数	0	0	2	9	0	1	8	14	34
	合計	0		11		1		22		

○延べ参加人数

	校種別	大学生等		高校生		中学生		小学生		合計
	性別	男	女	男	女	男	女	男	女	
青森(全47回) 県総合社会教育センター	人数	102	161	66	133	10	18	159	165	814
	合計	263		199		28		324		
八戸公民館会場 (8回) 吹上公民館	人数	0	0	14	42	0	1	29	47	133
	合計	0		56		1		76		

八戸児童館会場 (5回)	人数	0	0	1	15	0	0	51	44	
吹上児童館	合計	0		16		0		95		111
七戸公民館会場 (7回)	人数	0	0	5	28	0	2	6	27	
七戸南公民館	合計	0		33		2		33		68
七戸児童館会場 (9回)	人数	0	0	5	23	0	0	47	72	
城南公民館	合計	0		28		0		119		147

#### 【成果と課題】

年間に5回の講座を実施し、中学生・高校生・大学生が児童との接し方やコミュニケーションについて学んだ。また、実践の場として「寺子屋」での演習を設けたことで参加者の満足度や意欲が向上し、主体性が着実に向上している。「寺子屋」は、青森市会場が月4回、八戸市と七戸町会場が月2回を基本に通年で開催し、オリジナルのメニューを考えて交流するなど自主性が見られた。特に講座や演習を通して経験を積んだ高校生が、進路選択の際に自信を持って面接試験や筆記試験に臨むことができ、自己実現を果たしている。また、今年度で終了となる七戸町では、次年度は七戸高校の活動の一環としてこの事業が継続される予定である。

今後は、市町村で、青少年が継続した活動を実施できるような体制を作っていく必要がある。

### 青少年異年齢交流モデル事業(寺子屋あり)

#### 【事業目的及び概要】

青少年の豊かな人間性や社会性を育むため、異年齢集団における交流活動をとおして、主体的に関わり、相互に学び合い、成長できる仕組みづくりを行うモデル事業である。

#### 【事業内容及び結果】

##### (1) 事業内容

- ア 対象：青少年(小学生、中学生、高校生及び大学生)
- イ 期間等：毎週日曜日及び長期休業中 計47回
- ウ 場所：県総合社会教育センター

##### (2) 参加者等

- ア 延べ参加者数 814名
- イ 参加学校 32校(小学校14校 中学校4校 高等学校6校 大学等8校)

#### 【成果と課題】

異年齢の青少年が校種を超えて、互いに学び、成長する機会を設定することができ、定期的に交流することで、自分や仲間の良さ、強みを活かして活動することができた。参加者にとって、「寺子屋あり」は、居場所となりつつある。

今後は、参加者が固定化されてきているので、広く活動を周知し新たな参加者による新たな関係作りを図っていく必要がある。

### 青少年社会参加活動・創作活動モデル団体研究事業

#### 【事業目的及び概要】

青少年の社会参加活動・創作活動の推進に取り組む方策の研究を目的として、高校生・大学生等を中心に社会参加活動・創作活動を行っている団体をモデル団体に指定し、支援する事業である。

#### 【事業内容及び結果】

- (1) 団体募集(高校生や大学生、専門学校生等を主体とした団体)
- (2) 団体の指定

#### 【社会参加活動モデル団体】

	団体名	校種	主な活動内容	メンバー数
1	青森学生団体ASC	高校	地域活性化を目的とし、郷土(青森)の魅力を発信	12名
2	L e s t a (レスタ)	高校 大学	異年齢交流、小・中・高校生へのキャリア形成支援等	20名
3	青森中央高校読み聞かせ隊	高校	子どもたちへの絵本の読み聞かせ、三陸復興応援活動等	10名

4	LFV ～人の可能性を広げる団体～	大学	地域の子どもたちを対象とした地域の活性化活動	36名
5	「世界遺産登録を目指す縄文遺跡群学芸員なりきりツアー」実行委員会	高校	学芸員の職業体験や土器造りのワークショップ・ガイド体験のボランティア活動	8名
6	キャリアサポートクラブコンソーシアム(キャリサポ連合)	大学	大学生とカタル！キャリアサポート形成事業へのボランティア参加、高校生及び大学生のキャリア形成支援	570名

#### 【創作活動モデル団体】

	団体名	校種	主な活動内容	メンバー数
1	確原色	高校	市内高校生を主体とした合同文化イベントの企画・発表	20名

#### (3) 団体支援

- ア 発表の場の提供
- イ 情報発信用の専用掲示スペースの設置
- ウ ミーティング等を行うスペースの用意
- エ 所報「響」やホームページ等での活動状況の紹介
- オ 社会教育主事等による情報提供とアドバイス
- カ 名義使用の許可
- キ 研修室等使用料の減免

#### 【成果と課題】

青少年社会参加活動モデル団体6団体、青少年創作活動モデル団体1団体を指定した。また団体指定された代表が参集し、今年度新たにワールドカフェ形式の代表者会議を開催した。各団体の悩みや将来の展望等を情報共有できたことで、団体交流が深まりネットワークの構築につながった。来年度以降もモデル団体がより活発に活動できるよう研究し、モデル団体の募集・活動支援に継続的に取り組む必要がある。

#### 地域は今と未来をつなぐ教育支援活動コーディネーター等研修 851千円

##### 【事業目的及び概要】

学校・家庭・地域が連携・協働して地域の子供を育むために、学校と地域住民・企業・NPO・各種団体等をつなぐ「教育支援活動コーディネーター」の育成及びキャリア教育関係者のスキルアップをめざした研修を行う事業である。

##### 【事業内容及び結果】

##### (1) 教育支援活動コーディネーターの育成及びスキルアップ研修の実施

- 期日・場所：上北地区 7/24(火) 三沢市国際交流教育センター  
東青地区 7/25(水) 県総合社会教育センター
- 対象：教育支援活動推進員、学校支援コーディネーター等
- 講師：NPO法人みらいずworks 代表理事 小見 まいこ
- 参加者数：上北地区16名 東青地区14名

##### (2) 地域資源を活用したキャリア教育推進フォーラムの開催

- 期日：10/18(木) 13:00～15:30
- 場所：県総合社会教育センター
- 参加者数：233名
- 対象：教育支援活動推進員、学校支援コーディネーター、企業・NPO等キャリア教育担当者、PTA関係者、教職員等

##### ○ 内容

##### ① 「あおりキャリア教育応援企業表彰」表彰式

受賞企業・事業所等数：14社・団体

有限会社フォトシバタ(青森市)

ササキ石油販売株式会社(十和田市)  
 北斗建設株式会社(青森市)  
 下北地方森林組合(むつ市)  
 株式会社ジュネス美容室(青森市)  
 日米友好クラブ(三沢市)  
 イトーヨーカドー青森店(青森市)  
 有限会社ササキ美容院(むつ市)  
 社会福祉法人美土里会 特別養護老人ホーム美土里荘(七戸町)  
 鉄工房アール(青森市)  
 白神山地ビジターセンター(西目屋村)  
 弘前ガス株式会社(弘前市)  
 社会福祉法人嶽陽会 特別養護老人ホーム松山荘(弘前市)  
 株式会社西村組(弘前市)

②講演 「いま 高校を地域に埋め戻すとき～高校で行う地域再生×キャリア教育」  
 講師：大正大学 地域構想研究所 教授 浦崎 太郎

③「あおもりキャリア教育応援企業表彰」受賞企業による学校支援パネル展示交流

(3)「我が社は学校教育サポーター」ウェブサイトの管理・運営

○青森県教育支援プラットフォーム「我が社は学校教育サポーター」ウェブサイトの管理・運営

○新規登録事業所の開拓、登録手続き

#### [成果と課題]

本事業を通じ、「次世代の学校」に向けコーディネーターの役割やその重要性、必要とされるスキルの提供、またキャリア教育の重要性等について理解を深めさせることができた。しかし、本県ではその重要性が理解されながらもコーディネーターが十分に機能していない地域や、コーディネーターが配置されていない地域もある。そこで、各教育事務所と連携しながら市町村教育委員会関係者の理解及び意識啓発の促進等に力を入れる必要がある。

### 教員のためのチーム「学校・家庭・地域」連携講座

#### [事業目的及び概要]

新しい学習指導要領における「社会に開かれた教育課程」について理解を深め、その実現に向けて学校・家庭・地域が『チーム』として連携し、“未来の学校づくり・人づくり”に取り組む重要性と目的を共有し、具現化するための実践的な研修を行う事業である。

#### [事業内容及び結果]

○対象：小学校教員、中学校教員、高等学校教員、特別支援学校教員等

○場所：県総合社会教育センター

○受講者数：47名

○事業内容

11/20(火) 9:20～15:30

【説明】「地域学校協働活動」について

県教育庁生涯学習課

【講義】「社会に開かれた教育課程」の編成に向けて

講師 教育問題アドバイザー 坂本 徹

【実践発表】「子ども活動支援事業を通じた連携のかたち」

特定非営利活動法人なんぶねっと 理事長 四戸 泰明

【事例発表】『「地域密着型教育」を通じて 子どもたちに確かな学びと豊かな育ちを』

八戸市立白銀小学校 教諭 中村 雅人

「地域から愛される学校」

むつ市立田名部中学校 教頭 中村 邦夫

「高校生レストラン『キッチンいちょうの森』の取組について

県立百石高等学校 教諭 大和 達子

「相談支援事業の現状と課題」～「ねっと！ひまわり」を開設して

県立森田養護学校 教諭 岡村 尚文

【演習①】「課題は何だ!？」(校種別グループワーク)

ファシリテーター 県総合社会教育センター職員



11/21(水) 9:30~15:00

【事業説明】「教育支援プラットフォーム事業」の紹介 県総合社会教育センター職員  
 【情報提供】「連携事例の紹介」(ブース形式) 県近代文学館 文学専門主査 武永 佐知子  
 県立郷土館 学芸課 研究主査 福士 道太  
 滝本 敦  
 文化財保護課三内丸山遺跡保存活用推進室 縄文時遊館 主幹専門員 川上 彰雄  
 一般社団法人三内丸山応援隊 事務局長 三浦 進

【演習②】「企業による模擬授業体験」  
 『ライフプランニング授業』ソニー生命保険株式会社 ライフプランナー 工藤 将太  
 工藤 博政

【演習③】「モデルプランを作ろう！」(校種別グループワーク)  
 ファシリテーター 県総合社会教育センター職員

**[成果と課題]**

新学習指導要領全面実施に向け、講義では、「社会に開かれた教育課程」とは何かを問い、正しい理解とその本質について深く考える機会となり、今後の教育課程編成の視点を明確にすることができた。また、実践・事例発表や情報提供、演習等を通じて、「目的を共有する」ことを意識したプランニングなど、受講者自身が当事者として積極的に「地域との関わり」についてディスカッションできたことは、十分本校でも生かされる内容となった。

「社会に開かれた教育課程」の理念は理解され、事例についても情報は様々提供されているにしても、実際には「どうやって地域と目的を共有するのか」や「どのように地域とつながるのか」、「誰がコーディネートするのか」等、『地域学校協働活動』に加え『コミュニティ・スクール』についても実務的・具体的に理解を深める必要がある。

**家庭教育応援隊養成講座 809 千円**

**[事業目的及び概要]**

地域全体で家庭教育を支援する体制を整備することを目的として、各地域で子育てを応援する家庭教育支援者やリーダーを育成する事業である。

**[事業内容及び結果]**

- 場所：県内2地区 東青地区(県総合社会教育センター)、三八地区(八戸市総合福祉会館)
- 回数：各7回
- 受講者数：延べ298名(東青地区延べ111名、三八地区延べ187名)
- 子育てサロンへの参加親子数：103組216名(東青地区29組68名、三八地区74組148名)
- 修了証書発行数：48名分(東青地区16名分、三八地区32名分)
- 内容

・家庭教育支援講座・演習各7回(子育てサロンの実践3回を含む)

回	開催地区 開催日	内 容
1	東青地区 6/9(土)	講義 「社会情勢と家庭教育支援者の役割・心構え」 講師 特定非営利活動法人子育て応援隊ココネットあおもり 代表理事 沼田 久美
	三八地区 6/22(金)	講義 「社会情勢と家庭教育支援者の役割・心構え」 講師 特定非営利活動法人子育て応援隊ココネットあおもり 代表理事 沼田 久美
2	東青地区 7/7(土)	講義 「傾聴と親が育つ支援のあり方」 講師 青森教育カウンセラー協会 副代表 佐々木 順子 演習 「あおもり親楽プログラムⅠ」 進行 県総合社会教育センター職員
	三八地区 7/18(水)	講義 「傾聴と親が育つ支援のあり方」 講師 児童心理治療施設「青森おおぞら学園」 理事長・施設長 鳴海 明敏 演習 「あおもり親楽プログラムⅠ」 進行 県総合社会教育センター職員

3	東青地区 8/4(土)	講義 「気になる子どもの理解と対応」 講師 青森中央短期大学 幼児保育学科 専任講師 松浦 淳 演習 「あおもり親楽プログラムⅡ」 進行 県総合社会教育センター職員
	三八地区 8/24(金)	講義 「気になる子どもの理解と対応」 講師 青森中央短期大学 幼児保育学科 専任講師 松浦 淳 演習 「あおもり親楽プログラムⅡ」 進行 県総合社会教育センター職員
4	東青地区 9/8(土)	講義・演習 「子育てサロンの企画・運営について」 講師 特定非営利活動法人子育て応援隊ココネットあおもり 副代表 久保田 正美
	三八地区 9/21(金)	講義・演習 「子育てサロンの企画・運営について」 講師 特定非営利活動法人はちのへ未来ネット 代表理事 平間 恵美
5	東青地区 10/6(土)	実践 子育てサロン「ダンボール迷路であそぼう！」 進行 受講者、県総合社会教育センター職員 講義「心の通うコミュニケーション」 講師 青森県立保健大学 准教授 川内 規会
	三八地区 10/30(火)	実践 子育てサロン「親子で遊ぼう」 進行 受講者、県総合社会教育センター職員 講義「心の通うコミュニケーション」 講師 青森県立保健大学 准教授 川内 規会
6	東青地区 11/3(土)	実践 子育てサロン「つくっちゃおう！シールアート」 進行 受講者、県総合社会教育センター職員 講義「読み聞かせにおける工夫点」 講師 県立青森南高等学校 教諭 秋田 敏博
	三八地区 11/30(金)	実践 子育てサロン「親子で楽しむプラバンづくり」 進行 受講者、県総合社会教育センター職員 講義「読み聞かせにおける工夫点」 講師 特定非営利活動法人はちのへ未来ネット 代表理事 平間 恵美
7	東青地区 12/8(土)	実践 子育てサロン「オリジナルツリー型帽子作り」 進行 受講者、県総合社会教育センター職員
	三八地区 12/19(水)	実践 子育てサロン「みんなでワイワイ☆クリスマス☆」 進行 受講者、県総合社会教育センター職員

### 〔成果と課題〕

全7回の家庭教育支援講座を通して支援者やリーダーを養成するという観点から、受講者が段階を踏んで学びながら意欲を高められるよう講座内容を構成したことで、受講者のニーズに応えることができ、高い満足度を得ることができた。東青・三八地区研修での受講者は延べ298名、4回以上の受講で修了証書を発行した数は48名分となった。また、それぞれ3回ずつの子育てサロン運営では、受講者が自ら計画したメニューを役割分担しながら実践し、参加する保護者の話に傾聴したり情報交換したりと、これまでの学びを活かし、体験を通じた子育ての現状と課題を知る機会となった。特に両会場ともにリピーターの方々の利用が多く、進行を行う受講者の意欲にもつながる要因となった。さらに、生涯学習課が派遣する「あおもり家庭教育アドバイザー」への新規登録は30名となった。

今後は、残り4地区においても、家庭教育支援に対する県内共通の認識を核としながら、地域の特性を活かし講座運営を継続する必要がある。また、セミナー閉講後も受講者が継続して家庭教育支援者として活動していけるような環境づくりや子育て中の親のニーズに応えていけるような仕組みづくりを整え、家庭教育支援の充実に努めていく必要がある。

## 家庭教育支援動画制作普及事業 3,705 千円

### 〔事業目的及び概要〕

子育てに関わる人々の抱える不安や悩みを払拭し、家庭教育の重要性を訴えるため、家庭教育支援動画及び家庭教育支援テレビ番組を制作し、専門家等によって学術的に裏付けされた子育て情報を普及させ、県内における家庭教育の充実を図る事業である。

### 〔事業内容及び結果〕

#### (1) 動画制作普及委員会の開催

動画制作普及委員会を設置し、制作内容の検討・評価等を行うとともに、動画の普及活動のあり方について検討する。

#### ○家庭教育支援動画制作普及委員会委員名簿

No.	氏名	所属等	備考
1	松本 大	弘前大学教育学部 准教授	委員長
2	加藤 知明	弘前市立船沢小学校 校長	副委員長
3	上原 恵	日本キリスト教団三本木教会立保育所型認定こども園ひかり保育園 園長	
4	高坂 あつ子	社会福祉法人光福祉会幼保連携型認定こども園ときわ保育園 園長代理	
5	豊川 沙織	六ヶ所村教育委員会社会教育課 総括主幹	
6	工藤 美穂	mama sun Angels 代表	

#### ○家庭教育支援動画制作普及委員会の開催(委員 6 名)

- ア 第 1 回動画制作普及委員会 6/ 4(月)
- イ 第 2 回動画制作普及委員会 7/19(木)
- ウ 第 3 回動画制作普及委員会 10/15(月)
- エ 第 4 回動画制作普及委員会 11/22(木)

#### (2) 家庭教育支援動画、テレビ番組の制作

##### ア 家庭教育支援動画(5 分×5 本、民間委託制作)

家庭教育の重要性を広く普及するため、家庭や地域での様々な取組を紹介する。

- (ア) 学校に行きたくないって言われたら？
- (イ) 家族の笑顔を増やそう！
- (ウ) 子ども食堂ってどんなところ？
- (エ) 悩んでいるのは 1 人じゃないよ 発達障がい
- (オ) 身近にあるネットトラブル

##### イ 家庭教育支援テレビ番組(15 分×2 本、民間委託制作)

- (ア) 家族の笑顔を増やそう！
- (イ) 発達障がいを知っていますか？

#### (3) ホームページでの動画配信やDVD等による各種研修会等での活用。

#### (4) 市町村やPTA等から要望があれば、講師として動画を活用した出前講座を行う。

### 〔成果と課題〕

ホームページ閲覧数が増加しており、県内の子育て事情やニーズに沿った動画を配信することができた。また、視聴者モニター結果からも、視聴者の満足度が高い結果となった。

動画を活用した出前講座が昨年度から減少しており、周知を図り利用を促進する必要がある。

## 家庭教育相談事業 401 千円

### 〔事業目的及び概要〕

子育て中の不安や悩みを軽減することを目的として、乳幼児から高校生の保護者や家族を対象に、電話・メール等により、寄り添い型の家庭教育相談を行う事業である。

### 〔事業内容及び結果〕

- 対象：乳幼児から高校生の保護者や家族

○実施方法：電話相談・週3回 月・水・木曜日(祝日・年末年始を除く)13:00～16:00  
メール相談・24時間受付

○場 所：県総合社会教育センター電話相談室

○対応内容：発育・発達、しつけ、対人関係などの子どもに対する悩みや家庭教育全般について

○相談体制：県総合社会教育センター教育活動支援課員及び家庭教育支援員が対応

○相談件数：59件(電話相談39件、メール相談20件)

#### [成果と課題]

相談件数の総数は昨年度とほぼ同じ状況であったが、メール相談件数は昨年度より増加傾向にある。相談内容は、「発達・発育」、「問題行動」、「養育・しつけ」、「食事」、「対人関係」の順に多く、今年度の特徴として特に「発達・発育」の中の「行動」及び「問題行動」の中の「不登校」についての相談が多かった。いずれの相談も電話相談員が時間をかけてじっくりと傾聴することで、相談者の悩みや不安を軽減できた。

昨年度に引き続き、今年度も県教育庁学校教育課、県総合学校教育センター、県子ども家庭支援センター(アピオあおもり)との相談機関合同連絡会議を2回開催し、情報共有を図り、連携を深めることで、それぞれの相談機関が今後も効果的かつ円滑な事業実施につなげる機会とすることができた。

今後も相談機関との連携を活かすとともに、県総合社会教育センターホームページ「子育てネット」、ポスター・チラシ、ラジオ以外にも様々な機会を利用し、「すこやかほっとライン」について周知を図っていく必要がある。

## 県立図書館

### 子どもの読書活動推進のための図書セット貸出事業

#### [事業目的及び概要]

子どもの読書活動の環境づくりを進めることを目的として、市町村立図書館等に対して幼児、児童・生徒用図書セットを貸出する事業である。

#### [事業内容及び結果]

図書セットの内容	利用対象	前期		後期	
		配本先	配本冊数	配本先	配本冊数
1 小学校	低学年	38	3,380	40	3,440
	中学年	38	3,380	40	3,440
	高学年	39	3,440	37	3,460
2 中学校	中学校	10	520	9	500
3 読み聞かせ絵本 児童書等	保育所等	51	6,570	51	6,330
4 大型絵本	読み聞かせ活動者	42	780	41	605
5 テーマ別 図書セット	小・中学校 特別支援学校	8	343	8	370
6 ブックトーク セット	小・中学校、高等 学校、特別支援学 校、図書館	7	142	11	266

#### [成果と課題]

市町村立図書館等による学校図書館等との連携を支援することができている。

毎年度、新しい本を利用してもらえるように、図書セット内容更新を進める必要がある。

### 高校生の読書活動推進のための図書セット貸出事業

#### [事業目的及び概要]

高校生(特別支援学校高等部を含む。)の読書活動推進を目的として、高等学校図書館等に対してキャリア教育の充実、教育活動を支援する図書セットを貸出する事業である。

**[事業内容及び結果]**

前期		後期	
配本先	配本冊数	配本先	配本冊数
5	500	2	200

**[成果と課題]**

高等学校図書館等への支援を行うことができています。  
配本先拡充を進める必要がある。

**梵珠少年自然の家**

**梵珠少年自然の家主催事業 1,640 千円**

**[事業内容及び結果]**

(1) 看板事業

**[事業目的及び概要]**

教育効果が高い企画及びその運営手法などを広く普及啓発していくことを目的として、施設の魅力を生かした活動プログラムを発達段階に応じて提供していく事業である。

活動名	期日	対象	参加者数	内容
9歳チャレンジ・キャンプ ～ひとりではできないぞ!～	1回目 「創作で楽しもう」バージョン 7/21(土) ～23(月) 2回目 「昆虫大好き」バージョン 8/10(金) ～12(日)	9才児童 (小学3・4年生)	66名	出会いのつどい、仲間づくり交流ゲーム、家族への手紙書き、テント設営・撤収、おもちゃ作り、ペイトトラップ製作と設置、ホタル観察ハイク、松倉神社登山、キャンドルサービス、野外炊事、思い出クラフト、別れのつどい
夏の7days キャンプ ～岩手山からから梵珠へ この夏マウンテンバイクで走る 170km のチャレンジ!～	7/29(日) ～8/4(土)	小学5年生～ 中学3年生の 児童生徒	20名	出会いのつどい、マウンテンバイク隊列走行トレーニング、マウンテンバイクによる移動型テント泊、野外炊事、川遊び、キャンプファイヤー、防災キャンプ体験、レールバイク・トロッコ体験、燻製作り体験、花火大会、思い出クラフト、別れのつどい
年長すくすく キャンプ ～キッズの大冒険～	8/25(土) ～26(日)	年長児	49名	出会いのつどい、仲間作りゲーム、流しそうめん、森の中で冒険遊び、テント設営、絵本読み聞かせ、手巻き寿司作り、思い出クラフト、別れのつどい

ぼんじゅ冬キャンプ ～冬山ハイキングを 楽しもう～	3/1(金) ～3(日)	小学4年生 ～中学2年 生の児童生 徒	39名	出会いのつどい、仲間作り交流ゲーム、冬山ハイキング、炊事、スノーチューブ滑走体験、思い出クラフト、別れのつどい
---------------------------------	-----------------	------------------------------	-----	---

**【成果と課題】**

いずれの事業も施設及び施設周辺の教育資源を取り入れたプログラムを提供した。参加者は、キャンプ生活をとおして、運営スタッフや他の参加者との交流を深めたり、野外活動のノウハウを身につけたりと、心身をたくましく成長させることができた。特に、夏の7days キャンプでは、暑さに負けずマウンテンバイクで170kmを走破し、事業を共催した国立岩手山青少年交流の家が実施したアンケート調査でも高い教育効果が認められた。この事業は青森テレビの同行取材を受け、事後複数回の放送があり、施設からの情報発信という面でも大きな成果があった。

次年度は、今年度の反省を踏まえつつ事業に改善を加え、安全かつ円滑に運営できるよう入念に準備を進め、さらに充実した事業とする必要がある。

(2)養成事業

**【事業目的及び概要】**

自然体験活動の普及を図ることを目的として、当施設の利用団体の引率者、高校生、大学生、青少年教育団体の関係者を対象に、基礎的技術の伝達や様々なプログラムを体験できる研修機会を提供し、自然体験活動の指導者及びボランティアを養成する事業である。

活動名	期日	対象	参加者数	内容
在学少年宿泊指導者研修	4/17(火) ～18(水)	平成30年度利用予定団体の引率者及び今後利用を考えている団体の引率者	109名	実技体験(野外・室内・創作の各プログラム)、宿泊体験、講義(自然体験活動の意義及び効果的な自然の家の利用について)、説明(施設利用に当たっての留意点)、演習・実践(日課表作成)
自然体験活動ボランティア入門セミナー	6/9(土) ～10(日)	高校生以上(高校生、大学生、青少年指導者等)	34名	講義、野外活動、課題解決型野外炊事、キャンプファイヤー、人間関係作りワークショップ、救命救急法に関わる演習、施設ボランティア登録
自然体験活動ボランティア実践セミナー (1)9歳チャレンジ・キャンプ1 (2)夏の7days キャンプ (3)9歳チャレンジ・キャンプ2 (4)ファミリーキャンプ (5)年長すくすくキャンプ (6)スキルアップ研修会① (7)自然体験ぼんじゅフェスタ	実施日は各事業を参照	15歳以上(高校生以上)「自然体験活動ボランティア入門セミナー」を受講し、梵珠少年自然の家ボランティアとして登録した者	(1)6名 (2)4名 (3)8名 (4)9名 (5)11名 (6)23名 (7)41名 (8)5名 (9)14名 (10)14名 主催事業におけるボランティアスタッフの人数は、各主催事業の参加者数にカウントされている。	自然体験活動ボランティア入門セミナーで学んだ成果を生かし、各自が選択した(1)～(5)及び(7)～(9)の主催事業の中で、自主企画の企画立案及び運営を実践した。(スキルアップ研修会はボランティアスタッフのスキルアップという位置づけで子どもは参加しない。)  <b>【活動内容】</b> 主催事業においては、参加者の活動支援及び安全管理、仲間づくりの促進、創作活動時の製作指導、自主企画の立案及びその運営等の実施。 スキルアップ研修会②においては、子ども理解に関する基調講演、ワークショップ「ぼんじゅに参加する子ども達を考えよう」の実施。

(8)冬にとびだそう (9)ぼんじゅ冬 キャンプ (10)スキルアップ 研修会②				○ボランティア登録者数 44 名 ○マスターボランティア 有資格者数 35 名
指導者養成 ～ぼんじゅ出前講 座～	10/15～3 月 【各回即日】	幼稚園・保育 所及び小・中 学校、特別支 援学校の小・ 中学部、青少 年教育団体 (子ども会、児 童館、公民館、 放課後子ども 教室等)	2,607 名	団体が開催する各種行事(事業) に出向き、自然の家が提供するプ ログラムの実施における指導と助 言を行う。指導及び助言とは、指 導者への指導法等の伝達及び助 言、児童生徒への直接指導、指導 者研修会等での指導及び助言や実 地指導である。 活動プログラムは、自然の家ホ ームページにて「指導者養成～ぼ んじゅ出前講座～」プログラム一 覧参照

#### 【成果と課題】

養成事業として、自然体験活動ボランティア入門セミナー及び実践セミナーを実施し、ボランティアスタッフの意識・意欲の向上や自然体験ボランティアに係るスキルアップに取り組んだ。

ボランティアスタッフは主催事業の運営に欠くことのできない存在であり、特に子どもたちとの関わりの中で、「集団の持つ教育機能」を発揮する役割を担っており、事業の成否に関わるキーパーソンとして位置づけている。また、本事業で特に重視していることがマスターボランティアの養成である。マスターボランティアは、入門セミナーの他、看板事業1事業、親子事業1事業に実践セミナー生として参加することで付与される資格であるが現在35名が認定されており、主催事業だけではなく、在学少年宿泊指導者研修会での指導補助や後輩ボランティアの育成など重要な役割を担うレベルまで達した者も輩出することができた。次年度もボランティアとの連携を深めながら、ボランティアスタッフの自己実現につながるよう達成感のある役割を与えていく必要がある。

ぼんじゅ出前講座については新規団体からの要請も多くあり、活動プログラムの普及や指導者養成という点で一定の成果があった。

次年度は、利用団体が自前で講座を運営できるよう、用具の貸し出しや材料の提供などより利用しやすい環境に向けて整備を進めていく必要がある。

#### (3) 親子事業

##### 【事業目的及び概要】

親子や仲間とのふれあいを深めながら自然について学ぶとともに、自然に親しむ態度を育てることを目的として、施設周辺の自然環境を活かした多様な体験活動を行う事業である。

活動名	期日	対象	参加者数	内容
春を楽しむサン d a y ～春の息吹を五感で 感じよう～	4/30(月)	小・中学校の 児童生徒と その保護者	46 名	はじめのつどい、自然観察・春の 生き物さがし、竹炭作り、おわりの つどい
ファミリーキャン プ 家族 day 野外 炊事！～ダッチオ ープンに挑戦して みませんか～	9/8(土) ～9(日)	幼児～中学 生とその保 護者	18 家族 64 名	はじめのつどい、野外活動体験、 ダッチオープンによる野外炊事、 キャンプファイヤー、テント泊、 思い出クラフト、おわりのつどい

自然体験ぼんじゅフェスタ	10/14(日)	小・中学校の児童生徒とその保護者及び自然体験活動に関心のある方	402名	ダッチオープン体験、本格リース作り、自然物を使った創作ブース、木材を使った創作ブース、フリー体験ブース、遊びのコーナー、野外活動、乗馬体験他
本格門松をつくろう	12/15(土)・12/16(日) 【即日2回 両日とも同内容】	小・中学校の児童生徒とその保護者及び一般の方	280名	開会行事、製作説明、本格門松づくり(土台作り、飾り付け)
冬にとびだそう ～親子で白銀の世界～	2/2(土)～3(日)	小・中学校の児童生徒とその保護者	20名	はじめのつどい、冬の自然観察、雪灯籠作り、炊事「おでん鍋」、夜の雪灯籠祭り、思い出クラフト、チューブそり遊び、おわりのつどい

#### 【成果と課題】

前年度のアンケートや要望を踏まえて、ニーズに合った企画を提供できたことにより参加家族から好評であった。親子事業は家族で自然環境へ目を向けてもらう第一歩と捉えており、これらの事業が家族でのキャンプなど自然に親しむ活動へとつながっていくことを期待している。

次年度は新規事業として提供して3年目となることから、参加者からのニーズや要望を詳しく聞き取りつつ、ここまでの成果を検証し新たなプログラム案を検討していく必要がある。

## 種差少年自然の家

種差少年自然の家主催事業(自然と遊ぼう、子どもの祭典) 902千円

#### 【事業目的及び概要】

小・中学生が家族や仲間とのふれあいを深めながら、心豊かでたくましい子どもに育てることを目的として、山野や海での自然体験活動や野外でのキャンプ活動、創作活動等さまざまな活動を体験する機会を提供する事業である。

#### 【事業内容及び結果】

##### (1) 自然と遊ぼう

活動名	期 日	対象	参加者数	内 容
たねさしワールド 「春を感じて」	5/13(日)	小・中学生とその保護者	93名	・みちのく潮風トレイル散策 ・ニュースポーツ ・竹トンボ作り ・種差アロマアートづくり
たねさしワールド 「エンジョイ!海遊び」 ①② ※2回開催	7/1(日)		156名	・いかだ遊び ・カヌー遊び
	7/8(日)		175名	・磯遊び、かにつり ・サンドクラフトづくり
たねさしワールド 「秋を感じて」	10/14(日)	小・中学生とその保護者	110名	・棒パン焼き ・木の実プレートづくり ・ネイチャーゲーム ・秋の森さんぽ
たねさしワールド 「つくって新発見」	12/2(日)		94名	・ミニ門松づくり ・ミニしめ飾りづくり
たねさしワールド 「エンジョイ!雪遊び」 ①② ※2回開催	1/26(土)	4歳以上の幼保・小・中学生とその保護者	75名	・スノーチューブすべり ・そり遊び
	1/27(日)		112名	・スノークラフト ・せんべい焼き
たねさしワールド 「こども大作戦」①② ※2回開催	2/9(土)～10(日)	小3年～4年	52名	・仲良しタイム ・森の探検
	2/16(土)～17(日)	小1年～2年	56名	・館内ツリーイング ・スノーチューブすべり



## (2) 子どもの祭典

事業名	期 日	対 象	参加者数	内 容
おいでよ！ サマーキャンプ	8/7(火) ～10(金)	小5年 ～中3年	41名	・テントでの宿泊体験 ・野外炊事 ・星空と夜の自然音 ・海水浴 ・キャンドルファイヤー ・焼板づくり ・洗濯とそうめんづくり
わくわくどきどき ウィンターキャンプ	12/25(月) ～27(水)	小5 ～中3	39名	・テントでの宿泊体験 ・ティピーづくり ・冬の森探検 ・ボンファイヤー ・薪割り体験 ・思い出プレートづくり ・ペットボトルランタンづくり ・炊事活動

### [成果と課題]

#### (1) 成果

- ・親子が四季折々の自然環境の中で、さまざまな自然体験活動を楽しみ、交流を深めていた。
- ・ティピーが班の中で、仲良く談笑したり、協力し合ったりする場面となった。
- ・昔ながら薪割り体験、火の取り扱い方の経験は家庭ではできない活動となり、改めて生きることの大切さを感じていた。

#### (2) 課題

- ・降雨によるプログラムの変更を余儀なくされたが、日程等も含め、降雨の場合の計画を綿密に立てる必要があった。
- ・リピーターの参加者が半数あり、プログラムがマンネリ化しないように検討し、興味・関心をもってもらえるように幅広く参加者を募る広報活動をしていく必要がある。

## 自然体験活動支援事業 257千円

### [事業目的及び概要]

学校や身近な野外活動場所で子どもたちに自然体験活動の場を提供することを目的として、種差少年自然の家職員が現地に出向いて自然体験活動の実地支援を行う。また、自然体験活動の指導者の資質向上を図ることを目的として、小中学校及び関係機関等の指導職員を対象に行う研修事業である。

### [事業内容及び結果]

事業名	期 日	対 象	参加者数	内 容
自然体験活動 出前講座	4・5月及び 10月～3月 *6月～9月 は原則なし	三八、上北管内の 小・中学校、児童館、 公民館、青少年団体 や成人団体等 ※10名以下の団体も可	163団体 延べ 14,502 名	・種差少年自然の家のプログラムの中で出前対応可能なもの (せんべい焼き、どんぐりアート、動物マグネット、種差アロマアート 他)
自然体験活動 研修会	6/2(土) ～3(日)	幼・小・中学校教員、 高校・大学生、児童 館など関係機関の 指導者、その他自然 体験活動に興味の ある方	20名	・アイスブレイクやアドベンチャーゲームやネイチャーゲーム ・野外炊事や創作活動等のプログラムの実習 ・磯の生物観察等、海での活動のプログラムの実施 ・危機管理対応訓練等

### [成果と課題]

#### (1) 成果

- ・自然体験活動出前講座に各市町村教育委員会主催のイベント、地域イベントへの参加依頼が多くなった。また、障害者施設、老健施設からも参加依頼が増えてきた。
- ・自然体験活動研修会では、アイスブレイク、アドベンチャーゲーム、ネイチャーゲーム等、自然の中で、心を癒やしたり、協力して活動したりするすばらしさと安全面に関する配慮など、知識・技能を高めることができる研修会となった。さらに、海の活動での救助や避難の仕方、緊急時の連絡等、職員と一体となり、演習的な機会の場となった。

## (2)課題

- ・自然体験活動出前講座は幼児や高齢者など幅広い方々への支援となり、各年齢層に合った体験活動を提供する必要がある。
- ・自然体験活動研修への参加が少ないので、日程等も含め、スキルアップや子どもへの効果的な支援のあり方の研修内容にしていく必要がある。

## 在学少年宿泊指導者研修

### 〔事業目的及び概要〕

種差少年自然の家を利用する小・中学校の引率教員を対象に、宿泊学習や野外活動等を効果的に行うことを目的として、活動プログラムの内容・指導の仕方や施設・設備の利用の仕方等について研修するとともに、利用する際の日課表を具体的に作成する事業である。

### 〔事業内容及び結果〕

- 期日：4/23(月)～24(火)
- 場所：種差少年自然の家
- 参加者数：68名
- 内容：(講義)社会教育施設としての自然の家の効果的な利用の仕方  
(実習)活動プログラムの実習(野外、自然、創作活動、夜の活動)、施設等の利用方法  
(演習)活動計画の立案、プログラムの相談、事前打合せ、確認

### 〔成果と課題〕

#### (1)成果

- ・講義では、指導のポイントを含めた内容や昨年度からの変更点まとめた結果、参加者のアンケートには「とてもわかりやすかった」という感想が多数あり、有意義な研修となった。
- ・実習には、プログラム研修の種類を多くした結果、安全面への配慮を含め知識・技能の習得に役立った研修となった。

#### (2)課題

- ・参加者に、限られた時間内での研修であるので、さらに資質向上と知識・技能の習得のために6月の自然体験活動研修会への参加を呼びかけていく必要がある。

## 親子で学ぶ防災キャンプ事業 197千円

### 〔事業目的及び概要〕

避けることのできない自然災害に遭遇したとき、災害時における実践的な対応能力を育むことを目的として、小・中学生の家族を対象に行う研修事業である。

### 〔事業内容及び結果〕

事業名	期 日	対象	参加者数	内 容
親子の絆 ～防災編～	9/22(土) ～23(日)	小・中学生と その保護者	20組 44名	・講義、演習「防災講話」・炊事活動 ・音楽鑑賞 ・体験活動「レレリエーション」「ライフセーバー訓練見学、AED使用体験」

### 〔成果と課題〕

#### (1)成果

- ・常設テントを使用する予定であったが、館内宿泊棟で利用した。各部屋で、親子のコミュニケーションをもてる機会となった。
- ・「ライフセーバー訓練の見学はとてもよい経験となった」という声が多く、大人の参加者には好評だった。

#### (2)課題

- ・常設テント使用ということで、参加者を限定したが、来年度は募集定員を増やし、魅力ある内容にしていく必要がある。

## (2) 活力ある地域コミュニティの形成に向けた人財の育成

- ア 地域活動の実践者の育成
- イ 地域活動の指導者、コーディネーターの養成
- ウ 地域活動に関わる人財のネットワーク形成の支援

### 生涯学習課

#### 社会教育を核とする地域ネットワーク活用促進事業(再掲)

(P60 (1)学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成に掲載)

### 総合社会教育センター

パワフルAOMORI! 創造塾 1,388 千円

#### 〔事業目的及び概要〕

新たな地域活動者の発掘・育成を行うとともに、仲間づくりの促進やネットワークの形成・強化、地域活動の活性化を図り、地域コミュニティを牽引する人財を育成する事業である。

#### 〔事業内容及び結果〕

##### (1) 講座内容

	期日	内容・講師等
第1回	7/21(土) ～22(日)	「オモイ」を共有する 【講義・演習】「映像制作ワークショップをとおした地域づくり」 ものがたり法人 FireWorks 脚本家 栗山 宗大
第2回	8/18(土) ～19(日)	「オモイ」をデザインする 【特別講演】「あおもりの未来をつくる人づくり～未来を変える挑戦～」 青森県知事 三村 申吾 【講義・演習】「地域づくりの現場のまっただ中で」 若者参画型プロジェクトチームやまなしの翼プロジェクト 代表 シナプテック株式会社 代表取締役 戸田 達昭
第3回	10/20(土) ～21(日)	「オモイ」をみかく 【講義・演習】『「オモイ」を『カタチ』にする情熱と行動』 いちのせき市民活動センター センター長 小野寺 浩樹 特定非営利活動法人コミュニサーあおもり 理事長 西川 智香子
第4回	12/ 1(土)	「オモイ」を楽しむ！ 【演習】「わたしのアクションプラン大自慢大会」 塾生によるプレゼンテーション

##### (2) 場所

第1～3回 県総合社会教育センター・青森公立大学国際交流ハウス

第4回 県総合社会教育センター

##### (3) 参加者

・塾生 20名

(男性 14名、女性 6名)

(20歳代 13名、30歳代 3名、40歳代 4名)

#### 〔成果と課題〕

全回参加が原則であることに加え、3回の講座を合宿型で実施していることから、塾生の学びと交流が深化し、地域活動を実践するネットワークが形成された。講師による指導を受けながら、小グループで地域課題に向けての具体的なプランを練るなど、地域活動を進める上でのポイントやノウハウ等を学ぶ実践的な講座内容となり、塾生の満足度も高い結果となった。また、講座を通して形成されたネットワークを活用しながら、塾生有志による自主的な地域活動が活発に計画、実施された。さらには、卒塾生とのネットワークも構築され、同窓会組織としての活動も活性化している。

学習内容の深まり方や企画力等には塾生により差が生じることがある。塾生同士でフォローアップし合う時間の確保やその方法を今後検討する必要がある。また、同窓会組織を県内の地域活動の活性化という社会的ミッションを共有した組織に発展させ、県内の継続した地域活動に資するため、同窓会組織へのサポートを継続していく必要がある。

**公民館等の防災・減災教育機能強化事業 1,700千円**

**〔事業目的及び概要〕**

公民館等が災害時に避難所になることが多いことを受け、公共施設職員や地域関係者を対象としたセミナーを開催し、避難所開設に関わるスキルアップをめざしながら、地域住民参加による自主防災組織などの協力体制の構築と、「小さな拠点づくり」に寄与する公共施設としての役割を担えるよう支援することによって、公民館を中心とした地域づくりに資する事業である。

**〔事業内容及び結果〕**

(1) 全体会

- ア 日時：6/15(金) 10:00～11:45
- イ 会場：県総合社会教育センター
- ウ 講演：「来るべき災害に向けた公民館の役割 ～日頃の備えから避難所運営まで～」
- エ 講師：青森県防災アドバイザー 瀧本 浩一  
(山口大学大学院創成科学研究科准教授、消防庁消防大学校客員教授)
- オ 参加者数 69名

(2) 各会場セミナー

- ア 期日：6月～12月
- イ 場所：県総合社会教育センター他、県内11市町
- ウ 講師：青森県防災士会 防災士 三浦 一郎、工藤 廣道、小林 閣則
- エ 対象：公民館職員、地域の公民館関係者(町内会、自主防災組織等)、市町村公民館等関係部局、公共施設(学校、福祉施設等)関係職員、市町村防災部局職員、市町村社会福祉協議会職員他
- オ 内容：避難所運営ゲーム(HUG)を活用した実践的な避難所運営訓練等

開催日	開催市町	開催施設	参加者数
6/28(木)	八戸市	八戸市総合福祉会館	45名
7/4(水)	鱒ヶ沢町	鱒ヶ沢町中央公民館	23名
7/18(水)	弘前市	弘前市民会館	52名
8/23(木)	大間町	大間町総合開発センター	26名
9/6(木)	むつ市	むつ合同庁舎 旧館	20名
9/13(木)	今別町	今別町開発センター	23名
9/19(水)	五所川原市	五所川原市中央公民館	23名
10/30(火)	おいらせ町	みなくる館	50名
11/8(木)	野辺地町	野辺地町中央公民館	13名
11/15(木)	三戸町	三戸町中央公民館	12名
12/6(木)	青森市	県総合社会教育センター	43名
総 計			330名

**〔成果と課題〕**

全体会では、防災や減災、そして有事の際の対応の流れを俯瞰することができた。また、見過ごされがちな自助の重要性を確認することができた。各会場セミナーでは、避難所運営を行うには現状の体制では不十分なところが多く、地域連携の重要性を再認識した。全体会、各会場セミナーともに参加者の満足度が非常に高かった。今後も公民館を中心とした地域づくりに資するため、地域住民や市町村行政職員等が連携し、防災・減災に関する意識の向上へつなげていく必要がある。

**生涯学習・社会教育関係職員研修講座 700千円**

**〔事業目的及び概要〕**

生涯学習・社会教育関係職員及び関係団体職員等の資質向上のため、業務遂行に係る基礎的・実務的な研修を行うとともに、地域課題の把握と課題解決につながる実践的な知識・技能の習得と人財育成を目的とした研修を行い、ネットワーク形成を図る事業である。

**〔事業内容及び結果〕**

(1) 新任職員研修

- 期日：前期…5/18(金) 後期…9/14(金)
- 場所：県総合社会教育センター
- 回数：2回
- 対象：市町村教育委員会の生涯学習・社会教育関係新任職員や関係団体等の新任職員等
- 内容：社会教育行政の業務遂行に係る基礎的な知識・技能の習得  
※センター研修と兼ねて実施 前期…第1回 後期…第6回

(2) センター研修

- 時期：5月～9月
- 回数：6回(県総合社会教育センター 定員各30名)
- 対象：市町村教育委員会の生涯学習・社会教育関係職員や関係団体等の職員等
- 内容：第1回…5/18(金) 社会教育行政が担う役割  
第2回…6/7(木) パワーポイントを使ったチラシづくりの実践(※定員20名)  
第3回…7/11(水) 地域活動における「地域学校協働活動」との関わり  
第4回…7/26(木) プレスリリースと交渉  
第5回…8/20(月) 協働によるまちづくり  
第6回…9/14(金) 事業計画と評価・改善について

(3) 地区研修

- 時期：5月～8月
- 回数：6回(1回×6地区 教育事務所単位)
- 対象：市町村教育委員会の生涯学習・社会教育関係職員や関係団体等の職員等
- 内容：各地区の地域課題に即した実践的な知識・技能の習得と人財育成  
東 青…7/11(水) 地域活動における「地域学校協働活動」との関わり  
西 北…8/20(月) 協働によるまちづくり  
中 南…6/21(木) 生きることと教育の本当の意味とは  
上 北…5/24(木) 地域課題に向き合った社会教育活動  
下 北…5/29(火) 地域全体で子どもを育む活動の充実  
三 八…8/28(火) 地域づくりにおけるネットワーク形成  
※センター研修と合同開催 東青…第3回 西北…第5回

**[成果と課題]**

今年度、新任職員研修(前期・後期)、センター研修、地区研修と合わせて全10回の研修を行ったが、センター研修とそれ以外の研修を兼ねる形の研修をそのうち4回設定した。これは、各市町村担当者の多忙化を考慮し、研修内容の精選を考えての試みでもあった。いずれも受講者アンケート回答から研修の満足度は90%を超える高い評価を得ることができた。

今後は、「研修講座一覧」を配付する際、各市町村の年間行事等と調整できるよう周知を早めるなどして、より多くの職員に受講してもらえよう努めるとともに、受講者が即実践に結びつけていけるような研修内容を精選していくなど検討していく必要がある。

### (3) 一人一人の主体的な学習と社会参加の推進

- ア 関係機関との連携による多様な学習活動の支援  
イ 学習成果を生かした社会参加活動の支援

#### 生涯学習課

特別支援学校を活用した生涯学習講座開設事業 575 千円

##### 〔事業目的及び概要〕

県民の生涯学習推進と開かれた学校づくりの促進を目的として、県立学校(特別支援学校)の有する専門性の高い教育機能を開放する事業である。

##### 〔事業内容及び結果〕

学校名	期間	日数	内 容	受講者数 (延数)
県立盲学校	7月	1日	ロービジョンと点字入門	8名(8名)
八戸盲学校	8～9月	6日	点字・点訳・歩行体験・視覚障害者の進路・福祉情報	5名(28名)
青森聾学校	6～9月	7日	手話講座	23名(118名)

##### 〔成果と課題〕

特別支援学校が有する、より専門性の高い学校機能の開放を目的に、特別支援学校のみで講座を開設している。受講者のアンケートによれば、「これからも続けてほしい」「点字についてまだまだ知らないことがたくさんあり、とてもよい経験となった。」など、いずれの講座も満足度は高く、県民の多様な学習ニーズに対応できている。

一方で、講座開設校がある地区に限られているため、県内各地域で県民の学習ニーズにこたえられるよう、未開催地区での講座開設をする必要がある。

#### 総合社会教育センター

元気青森人を創造するeラーニング推進事業 914 千円

##### 〔事業目的及び概要〕

自己の生き方や働き方について考えたり人生設計したりするための学習を、県民の誰もがいつでもどこでも手軽にできることを目的として、インターネットによる講座の配信を行う事業である。

##### 〔事業内容及び結果〕

インターネットによる学習教材の配信(eラーニング)

(1) 元気青森人 PowerUp コンテンツ	計	116 本	(アクセス件数：1,000 件)
ア 公開講座		8 本	
イ ワンポイントアドバイス		16 本	
ウ はたらく心		92 本	
(2) あおもり学インターネット講座	計	43 本	(アクセス件数：1,000 件)
ア あおもりの自然		9 本	
イ 我がふるさとあおもり		10 本	
ウ あおもり学特別講座		23 本	
エ 青森県の先人		1 本	
(3) あおもり子育てネット	計	157 本	(アクセス件数：50,582 件)
ア 家庭教育支援コンテンツ		54 本	
イ 家庭教育支援啓発教材		5 本	
ウ 家庭教育支援者向け動画		13 本	
エ センター企画テレビ放送番組		30 本	
オ 子育てワンポイントアドバイス		10 本	
カ 公開講座		2 本	
キ 子育て得情報		30 本	
ク 学習コーナー		13 本	

**[成果と課題]**

eラーニングコンテンツは年間を通じて定期的に利用されている。元気青森人 PowerUp コンテンツについては、利用者の利便性をより高めるため、タブレット端末やスマートフォン等でも閲覧しやすくなるようにリニューアル作業を行った。引き続き利用しやすいサイト運営に努める。

**学習情報の収集・提供事業 7,118 千円**

**[事業目的及び概要]**

県民の学習活動を支援することを目的として、各種学習情報を収集し、インターネットにより県民に提供するとともに、サーバ・パソコン機器等を維持管理する事業である。

**[事業内容及び結果]**

(1) 学習情報の収集・提供

4 情報(学習機会、指導者人材、団体・サークル、視聴覚教材)の収集・提供を行った。

・登録データ件数	学習機会情報	3,904 件
	団体・サークル情報	1,087 件
	指導者人材情報	1,416 件
	視聴覚教材情報	20,380 件
	計	26,787 件
・ありすネットアクセス回数	学習機会情報	3,262 回
	団体・サークル情報	1,633 回
	指導者人材情報	1,616 回
	視聴覚教材情報	966 回
	全情報	2,555 回
計	10,032 回	
・ありすネット検索回数	学習機会情報	844 回
	団体・サークル情報	456 回
	指導者人材情報	570 回
	視聴覚教材情報	509 回
	全情報	1,363 回
計	3,742 回	

(2) サーバ・パソコン機器等維持管理

青森県学習情報提供システム用サーバ・パソコン機器等を維持管理する。

**[成果と課題]**

例年同様、学習機会情報や視聴覚教材の検索が多く行われている。しかし、Web 経由での情報登録件数が低いことから、利用者側の情報登録方法を簡易にするなど、システムを改善していく必要がある。

**青森県視聴覚ライブラリー運営事業 525 千円**

**[事業目的及び概要]**

16mm フィルムをはじめとする県内の貴重な映像資料を収集・保管するとともにその活用を図り、県内の視聴覚教育の振興発展に寄与することを目的として、「青森県視聴覚ライブラリー」を運営する事業である。

**[事業内容及び結果]**

- (1) 生涯学習社会の充実を図る基礎資料を得るための調査・研究
- (2) 社会教育及び県民の学習活動のための研修施設・視聴覚機材の提供
- (3) 全国視聴覚教育連盟への加入
- (4) 視聴覚教材の購入 3 本

**[成果と課題]**

16mm フィルムの整理・清掃等を中心として事業を展開した。県内でも 16 mm フィルムの上映会を開いている市町村があり、貴重な映像資料であるフィルムの活用について更に検討が必要である。

**あおり県民カレッジ運営業務**

**[事業目的及び概要]**

県民の学習ニーズが多様化・高度化する中、興味・関心の高いテーマについて体系的・継続的に学習

し、その学習成果が社会から適切に評価され、学習成果を生かして社会参加できることを目的として、県民の生涯学習を総合的に支援する事業である。

### 〔事業内容及び結果〕

#### (1) あおもり県民カレッジの運営全般

##### ア あおもり県民カレッジ連携機関との関係強化

- ・連携機関登録団体に対し、協力関係の継続を依頼。  
※ 連携機関数：726 機関(体験施設 148 か所を含む)
- ・訪問による新規連携機関勧誘活動を実施。
- ・講座開催における協力などを通して、関係強化を推進。

##### イ 生涯学習支援のネットワーク構築

##### ウ 事務局の運営(県民カレッジ学生への連絡、連携機関との連絡調整、運営に関わる事務)

- ※ あおもり県民カレッジ学生数 23,452 名(新規 1,359 名)  
[教養学習コース 18,764 名(新規 1,159 名)]  
[子どもカレッジコース 4,688 名(新規 200 名)]

#### (2) 普及啓発事業

##### ア 学生募集(ポスターやパンフレットの作成)

- ・あおもり県民カレッジ&生涯学習情報紙「てのひら」による募集
- ・生涯学習フェア、キッズフェアにおけるカレッジ体験ツアーによる募集
- ・連携機関等イベントでの、県民カレッジブース出展による募集

##### イ 生涯学習フェア 2018 の開催(9/30(日))

- ・オープニング
- ・あおもり県民カレッジ認定証交付式
- ・講演会 古代への誘い「大和し美し〜ヤマトタケルの悲しみ〜」 講師 三村 三千代
- ・あおもり県民カレッジ連携機関等による講座、実習、体験、展示、センター事業紹介等
- ・事前申し込みなしで入場者が受講できる「カレッジ公開講座」を 6 講座開講
- ・ボランティアのガイドによる「カレッジ体験ツアー」を実施  
※ 入場者数 1,307 名

##### ウ 夏のキッズフェア 2018(7/1(日)), 冬のキッズフェア 2019(2/23(土), 24(日))の開催

子どもカレッジコースの普及啓発を図るため、生涯学習フェアのプレイベント・アフターイベントとして開催

- ※ 入場者数 夏のキッズフェア 2018 1,714 名、冬のキッズフェア 2019 9,261 名

##### エ 学習機会提供

- ・無料で古典的な名作映画を見ることができる映画観賞会を開催(11 回)

##### オ 生涯学習HPの作成

- ・指定管理者の生涯学習情報サイト<<https://www.manabi-aomori.com>>作成
- ・地域キャンパス講座、ボランティア自主講座等の情報掲載と更新
- ・生涯学習フェア等のイベント情報及び館内展示の情報掲載と更新

#### (3) 学習情報提供・学習相談事業

##### ア 学習機会情報の収集及び提供

- ・連携機関に対し新たな講座情報登録を依頼
- ・連携機関等訪問による講座情報の調査収集

##### イ 活動機会情報の収集及び提供

- ・ボランティア相談に対し、受入れ団体の情報を収集、提供

##### ウ 学習相談の実施

- ・窓口・電話・FAX・郵便・Eメールによる学習相談の受付  
※ 相談数 105 件

##### エ 県民カレッジ&生涯学習情報紙「てのひら」の発行

- ・あおもり県民カレッジ&生涯学習情報紙「てのひら」発行(年 6 回)

#### (4) 学習機会提供事業

##### ア 地域キャンパス講座(県内 6 地区)開催

- ※ 開催数 東青 6 回、西北 17 回、中南 6 回、上北 10 回、下北 6 回、三八 7 回  
※ 受講者数 延べ 669 名



※ A T Vの「いきいき健やか事業」との連携によるテレビ番組公開収録を講座化し、東青(2回)と西北(1回)で実施。

#### イ ボランティア活用支援

(ア) ボランティア講師登録の奨励と自主講座の開催

※ 講師登録数 96名

※ 講座数 109講座 受講者数 延べ846名

(イ) 生涯学習フェア、映画観賞会等における運営ボランティアの活用

※ 活動者数 延べ203名

#### ウ 「カダイ」は「マナビ」のチャンス！YOU遊トライアル運営

#### (5) 評価サービス及び学習成果の活用支援事業

##### ア 認定証・奨励証の交付

(ア) 認定証交付数

教養学習コース 465名 子どもカレッジコース 183名

(イ) 奨励証交付数

教養学習コース 52名 子どもカレッジコース 35名

##### イ ボランティア活動証明書の発行

#### [成果と課題]

カレッジ連携機関については、未加入の施設・団体に働きかけ14機関の新規加入を得た。キッズフェア2018及び生涯学習フェアは、青森県警本部や自衛隊等の協力を得て、犯罪防止や災害対策の体験コーナーを設置し好評を得た。また、ボランティア活動支援では、主催事業の運営ボランティアを募り、活動機会の提供を拡大することができた。

一方で、地域キャンパス講座においては、前年度からの継続性に配慮しながら実施したが、一部の地域で、カレッジ学友会等との連携調整が間に合わず、講座開催に遅れが出たため、企画や調整方法の改善を図る必要がある。また、カレッジ学生数は毎年増加しているが、入学から一定年数を過ぎた学生の継続意思確認を実施していないため、確認方法を検討する必要がある。

### インフォメーションプラザありすの運営

#### [事業目的及び概要]

生涯学習に関する総合窓口として、各種の相談対応のほか、視聴覚教材の貸出サービス、図書資料等の閲覧サービス等の業務を行う。

#### [事業内容及び結果]

(1) 窓口対応

(2) 視聴覚教材貸出サービス

(3) ポスター、チラシ、図書資料等の展示

(4) 社会参加活動支援センターの運営

ア 主催事業及び連携機関が実施する事業等における活動機会斡旋

イ ボランティアのつどい

(5) 学習成果の展示

・みんなのギャラリー、ギャラリーsha・seへの作品展示

#### [成果と課題]

学習スペースの利用が定着し、特に学校の試験前などは多くの学生・生徒の姿が見られた。また、打ち合わせなどで利用できることも利用者に周知され、空き研修室を利用した自主学習室を含め、目的に合った利用状況が定着してきたと言える。連携機関やカレッジ学生による成果発表の場として、ありす内に展示スペース(みんなのギャラリー)を設けたことで、利用者の交流スペースにもなっている。引き続き、快適な学習環境の整備に努めることが、総合社会教育センターの活性化に寄与するものと考えている。

### ボランティア活動支援機関連絡会議

#### [事業目的及び概要]

ボランティア活動を支援する機関のネットワークの構築・強化を図ることを目的とし、情報共有・情報交換を行う会議を開催する事業である。

### 〔事業内容及び結果〕

あおもり県民カレッジの連携機関は、県民に広く講座を実施している機関・団体等で構成されており、学習ボランティアという視点からボランティア活動支援に関する課題について意見交換した。

地区	期日	開催場所	参加団体数	参加者数
西北	5/11	エルム文化センター	5	5名
下北	5/14	むつ市立図書館	9	12名
中南	5/18	弘前市総合学習センター	11	12名
東青	5/21	青森県総合社会教育センター	45	54名
上北	5/24	鷹山宇一記念美術館	11	14名
三八	5/28	八戸市総合福祉会館	9	17名

### 〔成果と課題〕

ボランティア活動支援に関する現実的な悩みや疑問点を共有し、団体相互でアドバイスをするなど、一定の成果があった。また、高校生スキルアッププログラム推進事業の周知を行うことで、団体側から高校への情報発信を促進することができた。今後は、情報交換にとどまらず、地域を横断したネットワークの構築等についても話し合う場にしていく必要がある。

## 県立図書館

### 近代文学館 特別展開催事業 2,099千円

#### 〔事業目的及び概要〕

青森県の近代文学に関する理解を深めることを目的として、特定のテーマに添った特別展を開催する事業である。

#### 〔事業内容及び結果〕

##### (1) 「特別展 平成の青森文学」

○会期：7/14(土)～9/24(月)

○内容：青森県は、明治、大正、昭和と、その時代時代に数多くの個性豊かな文学者を輩出してきた。

青森の風土から生み出され受け継がれた「青森文学」の伝統は、平成の世にどのような形で流れ込んだのか。区切りを迎えようとしている平成の時代、その30年間における青森文学の展開を概観する展示を開催。

○展示資料数：310点(草稿・自筆資料14点、書画10点、印刷物6点、図書266点、雑誌10点、その他4点)

○来場者数：3,373名

##### (2) 第1回文学講座

○期日：7/22(日)

○場所：県総合社会教育センター大研修室

○内容：朗読『翼はいつまでも』(坪田譲治文学賞受賞作)ほか

講師 青森明の星高等学校放送部

講演「青森のこと」

講師 川上 健一(作家)

○来場者数：68名

##### (3) 第2回文学講座

○期日：8/19(日)

○場所：県総合社会教育センター大研修室

○内容：トークセッション「平成の青森文学をつぶやく #ラノベ#マンガ#アニメ#太宰治#寺山修司」

出演：井上 諭一(弘前学院大学文学部学部長教授)・世良 啓(文筆家)

○来場者数：58名

##### (4) 日曜講座

○期日：9/16(日)

○場所：県立図書館研修室

○内容：講演「平成の青森文学を振り返る」

講師 伊藤 文一(県近代文学館室長)

○来場者数：30名

## 【成果と課題】

全国的な文学賞を受賞した県ゆかりの作家を中心に、その主な著書、関連資料を展示するとともに、三浦雅士、川上健一、梅内美華子、古川智映子、田澤拓也、堀川アサコ、西崎憲、木村友祐、高橋弘希、呉勝浩、高森美由紀、藤田晴央、世良啓、野沢省悟、米田省三、三浦徳壽という錚々たる 16 名の方々からは、「平成・青森・文学」をテーマにしたエッセイを寄せていただきパネル展示した。併せて平成における社会・経済・文化に関する略年表を掲示し、「青森文学」の伝統が、平成の世にどのような形で流れ込み、展開したかを概観できるように工夫した。なお、開会まもなく高橋弘希氏(十和田市生まれ)の芥川賞受賞が決まったことは、実にタイムリーな出来事であった。

本県からは、「青い山脈」の石坂洋次郎、「人間失格」の太宰治、「忍ぶ川」の三浦哲郎を初め、青春文学の作家が数多く輩出されているが、第 1 回文学講座で、平成における青春文学の旗手、川上健一氏を講師としてお招きすることができなかった。また、第 2 回文学講座では、井上諭一、世良啓のお二方に、平成における青森文学の新たな展開を照らし出すべく、ライトノベル、漫画といったサブカルチャーと青森文学について、また平成の世に新たな姿で立ち上がる太宰治、寺山修司についてお話しいただいた。

近年は、「戦争」「青函」「平成」といった横断的テーマの展示にも取り組んでいるところであるが、特にこのような展示の場合には、外部の専門家・識者らの協力が不可欠となるため、外部との協力体制をいかに築いていくかが一つの課題である。

## 近代文学館 企画展開催事業 763 千円

### 【事業目的及び概要】

#### (1) 「太宰治没後 70 年―秘蔵資料大公開―」

○会期：10/27(土)～1/14(月・祝)

○場所：県近代文学館企画展示室

○内容：昭和 23 年「人間失格」連載中の突然の逝去から 70 年という節目に当たり、県近代文学館で所蔵する太宰資料の数々を公開し、その生涯と業績を振り返る展示を開催。これまでは有名な資料の陰に隠れ、知られる機会の少なかった資料群にも光を当てた。

○展示資料数：187 点(草稿 11 点、自筆資料 8 点、書簡 12 点、書画 6 点、図書 71 点、雑誌 51 点、新聞 1 点、遺品 14 点、写真 4 点、その他 9 点)

○来場者数：3,228 名

#### (2) 「13 人の書画展」

○会期：2/23(土)～5/19(日)

○場所：近代文学館企画展示室

○内容：常設展示している 13 人の作家がかいた「書画」(書軸、短冊、色紙、スケッチ等)を展示した。作家たちの個性は、筆跡やフレーズとなって「書画」に表れる。直筆「書画」を通して、常設展の 13 人の個性と新たな魅力を発見していただく展示。

○展示資料数：105 点(書軸・書額 17 点、短冊 18 点、色紙 62 点、スケッチ 8 点)

○来場者数：1,761 名(3/31 現在)

### 【成果と課題】

「太宰治没後 70 年―秘蔵資料大公開―」では、太宰治の略年譜のパネルを展示室の基本の動線に掲げ、資料は各パネルに隣接した展示ケースに振り分け、年代順に配置するという構成を取った。積年の収集活動の成果により県近代文学館には、太宰の生涯全体を振り返り得る、多くの貴重資料が集まっているということを明示できた。また、キャプション(個々の資料に添える解説文)の充実化を図ったことで、資料の魅力に触れ、新たな思いで太宰文学と向き合うという機会を多くの方に提供することができた。

「13 人の書画展」では、常設展示している 13 人の作家がかいた「書画」(書軸、短冊、色紙、スケッチ等)を展示した。書画資料から伝わる文字、質感、フレーズを味わってもらうため、展示室内の解説は最小限のものとし、書画資料にまつわる解説・エピソードは別紙資料として印刷し、自由にお持ちいただくようにした。書や絵が好きな方の興味を引くようにポスターのデザインを工夫した。

分かりやすい展示構成、解説を心掛けることはもちろんだが、展示の観覧によって得た興味を更に広げてもらうためにはどうしたらよいかを考えていきたい。

<b>アウトリーチサービス推進事業</b>	<b>221 千円</b>
-----------------------	---------------

**[事業目的及び概要]**

来館による図書館利用が困難な重度心身障害者や要介護高齢者等に対して、宅配便による図書の搬送を行い、来館しなくても図書館資料を利用できる環境を提供する事業である。

**[事業内容及び結果]**

○登録者数：32名(うち新規登録者数1名)

○貸出：件数112件/冊数512点

**[成果と課題]**

県立図書館に直接来館することが難しい障害者や高齢者等に対して、サービスを提供することができた。課題としては、利用者が希望する資料が本館にない場合の対応が難しいことがあげられる。

## (4) 社会教育推進のための基盤整備

- ア 社会教育推進体制の充実
- イ 社会教育施設の機能の充実と活用の促進
- ウ 社会教育関係職員の養成と資質の向上
- エ 社会教育関係団体等の活動の支援

### 生涯学習課

生涯学習推進基盤整備事業(生涯学習推進本部、青森県生涯学習審議会) 1,068 千円

#### [事業目的及び概要]

生涯学習振興法(生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律)の趣旨を踏まえ、本県の生涯学習推進体制を整備していくため、生涯学習推進本部等を運営する。また、生涯学習推進に資する施策の総合的な推進に関する重要事項について調査、審議するため、生涯学習審議会を運営する。

#### [事業内容及び結果]

##### (1) 生涯学習推進本部

生涯学習に関する関係部局相互の連携、協力を図り、生涯学習関連施策を一体的、効果的に進めるため、県の関係各課、出先機関等が実施する生涯学習関連事業について調査を行い、結果を取りまとめる。

##### (2) 青森県生涯学習審議会

###### 第13期青森県生涯学習審議会

○委員：15名

○任期：2年(H28/8/21～H30/8/20)

○方針：県及び県教育委員会が実施する生涯学習・社会教育関連事業について調査し、生涯学習課が今後取り組むべき事業について審議する。

○審議テーマ：「あおもりで若者が集い、生き生きと活躍できる持続可能な地域社会づくり」

○会議等の概要：第6回審議会 6/11(月) 報告書(案)について

報告書提出 8/8(水) 会長・副会長から県教育長へ提出

###### 第14期青森県生涯学習審議会

○委員：15名

○任期：2年(H30/10/19～R2/10/18)

○方針：県教育長から諮問された審議テーマについて調査し、生涯学習課が今後取り組むべき事業について審議する。

○審議テーマ：「人口減少下における地域コミュニティ再生のための生涯学習の推進の在り方」

○会議等の概要：第1回審議会 12/18(火) 県教育委員会からの諮問内容について

#### [成果と課題]

第13期審議会では、若者同士や地域住民との交流の場を創出することや若者を受け入れる側のアプローチの方向等について、県民に向けた提案、行政機関へ向けた提言を報告書にまとめ提案した。

第14期審議会では、県教育委員会教育長から諮問された「人口減少下における地域コミュニティ再生のための生涯学習の推進の在り方」に関する審議を今後進めていく必要がある。

生涯学習・社会教育総合調査研究事業 1,143 千円

#### [事業目的及び概要]

次年度以降のあおもりの未来をつくる人財の育成に関する生涯学習関連施策の方向性を検討するための基礎資料を得ることを目的として、青少年の体験活動に関する県民の実態調査を行う。

#### [事業内容及び結果]

県内の小学校4年生、中学校2年生、高等学校2年生、小学校2、4、6年生の保護者を対象にアンケート方式による調査を行い、その結果を分析し、報告書にまとめる。

○調査テーマ：「青少年の体験活動に関する県民の実態調査」

○調査対象：6,000人(児童・生徒3,000人、保護者3,000人)

○顧問の委嘱：調査研究に係る指導助言のため、大学教授等に研究顧問を委嘱する。

○報告書：100部を印刷し関係機関に配付するほか、ホームページでも公開する。

### [成果と課題]

今回の調査では、「青少年の体験活動」が「自己肯定感」、「道徳観・正義感」と相関関係があることがわかった。また、体験機会の十分さについての保護者の評価が、自然体験活動への参加度としつけ実施度の両方に影響を与えていることもわかった。

今後は、様々な青少年の体験活動ができるよう調査研究の成果を生涯学習関連施策・事業に生かしていく必要がある。

## 青森県社会教育委員の運営 734 千円

### [事業目的及び概要]

本県の社会教育推進体制の充実を図ることを目的として、社会教育法第 17 条に基づき青森県社会教育委員を設置し、本県社会教育の現状と振興方策について審議及び調査研究を行い、県教育委員会に答申、建議を行うことを目的として会議を運営する事業である。

### [事業内容及び結果]

#### (1) 第 33 期青森県社会教育委員

○委員：12 名（うち、専門部会委員 4 名）

○任期：2 年（H28/10/19～H30/10/18）

○第 33 期青森県社会教育委員の会議における調査研究テーマ

「人口減少下における地域コミュニティ形成のための行政と民間の新たな連携・協働の在り方」

○会議の概要

第 4 回専門部会 5/31(木) 調査研究報告書(一次案)について

第 5 回専門部会 7/26(木) 調査研究報告書(二次案)について

第 5 回全体会 9/ 3(月) 調査研究報告書(最終案)について

調査研究報告書提出 10/17(水) 議長・副議長から県教育長へ提出

#### (2) 第 34 期青森県社会教育委員

○委員：8 名

○任期：2 年（H30/10/19～R2/10/18）

○第 34 期青森県社会教育委員の会議における調査研究テーマ

「人づくり・つながりづくり・地域づくりの拠点としての社会教育施設の在り方」

○会議等の概要

第 1 回会議 12/18(火) 議長・副議長選出、青森県社会教育委員について

第 2 回会議 2/26(火) 今後の社会教育施設の在り方について

### [成果と課題]

第 33 期では、地域における団体や住民同士のつながり及び行政と民間の関わり方の現状と課題を把握するため、県内で活発に連携・協働している 3 エリアを調査対象とし、「人口減少下における地域コミュニティ形成のための行政と民間の新たな連携・協働の在り方」に関する提言をまとめ、教育長に報告した。今後、提言が社会教育関係者をはじめ、幅広く活用されるよう周知に努める必要がある。

第 34 期では、全県社会教育委員が生涯学習審議会委員を兼ねており、生涯学習審議会にて教育長から諮問された重点審議事項 2「人づくり・つながりづくり・地域づくりの拠点としての社会教育施設の在り方」に基づき、必要に応じて調査研究を行うこととした。

## 市町村の社会教育に関する現状調査及び「青森県の社会教育行政」の作成 262 千円

### [事業目的及び概要]

本県社会教育施策の企画・立案の資料作成を目的として、各市町村における社会教育事業実施状況及び社会教育施設・社会教育関係職員・生涯学習推進体制の状況等について調査する事業である。

### [事業内容及び結果]

#### (1) 市町村の社会教育行政調査

#### (2) 市町村の生涯学習推進体制等の状況に関する調査

#### (3) 「平成 30 年度青森県の社会教育行政」の作成配付(600 部)

### [成果と課題]

「青森県の社会教育行政」の作成にあたっては、体裁や文章表現に注意し、社会教育行政関係者が見やすく、利用しやすいように編集・校正を行った。

## 社会教育主事派遣事業 8,512 千円

### 〔事業目的及び概要〕

町村等の社会教育行政及び社会教育指導体制の充実を図ることを目的として、社会教育主事の資格を有する学校職員を町村等教育委員会に派遣する事業である。

### 〔事業内容及び結果〕

派遣先：上北地方教育・福祉事務組合 派遣者数：1名

### 〔成果と課題〕

派遣社会教育主事と事務組合任用の社会教育主事及び社会教育担当職員が連携して業務遂行に当たり、社会教育指導体制の充実が図られている。

## 社会教育主事有資格者育成派遣事業 740 千円

### 〔事業目的及び概要〕

社会教育指導体制の充実を図り、社会教育主事有資格者を育成することを目的として、教育事務所等の指導主事、小・中学校の教員を社会教育主事講習に派遣する事業である。

### 〔事業内容及び結果〕

(1) 社会教育主事講習(国立大学法人岩手大学)への派遣

研修期間：7/17(火)～8/9(木)

派遣者数：教育事務所指導主事2名、小学校教員1名

(2) 社会教育主事講習[B](国立教育政策研究所社会教育実践研究センター)への派遣

研修期間：1/21(月)～2/27(水)

派遣者数：県総合社会教育センター指導主事1名

### 〔成果と課題〕

東青教育事務所と上北教育事務所の指導主事が岩手大学での社会教育主事講習を修了し、10/1付で社会教育主事に発令された。

また、上北地区の小学校教員1名が社会教育主事有資格者となった。社会教育主事を増やすことで、今後さらなる社会教育主事体制の充実を図っていく。

## 生涯学習専門講座派遣事業 182 千円

### 〔事業目的及び概要〕

生涯学習の進行において中核的な役割を果たす専門的職員を育成することを目的として、関係職員を中央研修に派遣する事業である。

### 〔事業内容及び結果〕

(1) 社会教育主事専門講座(国立教育政策研究所社会教育実践研究センター)への派遣

研修期間：11/6(火)～11/9(金)

派遣者数：県総合社会教育センター社会教育主事1名、県教育委員会社会教育主事1名

(2) 地域教育力を高めるボランティアセミナー(国立教育政策研究所社会教育実践研究センター)への派遣

研修期間：3/7(木)～3/8(金)

派遣者数：教育事務所社会教育主事1名

### 〔成果と課題〕

派遣された者は、他県の事例を学び情報交換することで、今後の業務に役立てることができた。

講座は、演習や事例研究が多く設定されていることから、今後も専門的教育職員を育成するため、引き続き派遣し、最新の知見を得る必要がある。

## 社会教育主事等一般研修 154 千円

### 〔事業目的及び概要〕

県社会教育関係職員が一堂に会し、県の社会教育行政の方針と重点について研修と情報交換を行い、職務遂行能力のスキルアップを図る。

### 〔事業内容及び結果〕

研修会の開催 年2回

### 〔成果と課題〕

討議と情報交換を通じて、施策の方向性や取り組むべき重要課題、そしてこれからの社会教育の在り方と、それを担う職員に求められる資質等について学び、職員間で共通理解が図られた。

**在学青少年育成費補助事業 359 千円**

**[事業目的及び概要]**

青少年教育の機会拡充をより一層図ることを目的として、東京青森県人会、青森県高等学校長協会が行う県内の在学青少年(高校生)を対象とした講演会事業に対して助成を行う事業である。

**[事業内容及び結果]**

東京及びその近郊に在住する青森県出身者並びに青森県にゆかりのある方々を講師として県内高校に派遣する講演会事業に対する助成。

開催日	場 所	参加生徒数	内 容
9/13(木)	県立五所川原高等学校	589 名	演題：「地球の温暖化を現地で探る」 講師：立正大学 名誉教授 高村 弘毅
9/14(金)	県立金木高等学校	126 名	演題：「シルクロードを水の文明・閼伽を西に辿る」 講師：立正大学 名誉教授 高村 弘毅
9/13(木)	県立三本木高等学校	709 名	演題：「ミクロの世界からのメッセージ」 講師：千葉大学グランドフェロー 千葉大学名誉教授 野田 公俊
9/14(金)	県立三沢高等学校	706 名	
10/30(火)	県立八戸水産高等学校	406 名	演題「モノづくり・『三つのタネ』」 講師：株式会社TCA 代表取締役 千葉 貴司
10/31(水)	県立八戸中央高等学校	119 名	

**[成果と課題]**

講師が県内出身者であり、高校生にとっては、職業観や人生観、命の大切さ、新しい分野に挑戦し続ける姿勢の大切さなどキャリア教育の一環として有益な講演会であり、今後も引き続き助成を継続していく必要がある。

**社会教育を核とする地域ネットワーク活用促進事業(再掲)**

(P60 (1)学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成に掲載)

**北海道・東北ブロック生涯学習・社会教育主管課長会議開催費 118 千円**

**[事業目的及び概要]**

北海道・東北各県の生涯学習・社会教育主管課長等が一堂に会し、講話研修及び情報交換を行い、関係者の資質・能力向上、今後の社会教育行政の推進に資する。

**[事業内容及び結果]**

- 期 日 8/30(木)～8/31(金)
- 場 所 青森市(ラ・プラス青い森)
- 日 程 (1日目)研究協議  
(2日目)研究協議・情報交換

**[成果と課題]**

北海道・東北6県の生涯学習・社会教育行政の有効かつ効果的な展開を図るため、当該主管課長等が一堂に会し、研究協議及び情報交換等を実施した。テーマごとに各道県の直面する課題や現状、今後の取組について意見交換することができた。また、各道県の連携強化を図るよい機会となった。



## 第 60 回全国社会教育研究大会開催費 1,773 千円

### [事業目的及び概要]

全国の社会教育委員及び東北各県の公民館職員等社会教育関係者が一堂に会し、各地における活動状況や研究成果等について協議及び情報交換を行い、社会教育の一層の振興を図る事業である。

### [事業内容及び結果]

- 期日：10/24(水)～10/26(金)
- 場所：リンクステーションホール青森、青森国際ホテル
- 対象：都道府県・政令指定都市・市区町村の社会教育委員及び社会教育関係職員、公民館職員、社会教育関係団体、その他生涯学習・社旗教育に関心のある方
- 参加者：895名
- 内容：**【10/24(水)】**
  - ①全国社会教育委員連合理事会
  - ②都道府県・政令指定都市社会教育委員連絡協議会事務局担当者会議**【10/25(木)】**
  - ①東北社会教育委員連絡協議会理事会
  - ②全国社会教育委員連合総会
  - ③アトラクション
  - ④開会行事・表彰
  - ⑤記念対談
  - ⑥シンポジウム
  - ⑦閉会行事**【10/26(金)】**
  - ①分科会

### [成果と課題]

全国各地の社会教育委員をはじめとする社会教育関係者が一堂に会し、記念対談、シンポジウムほか5つの分科会のプログラムから、一人一人が未来を変えるために何ができるかという課題に即したテーマについて、有意義な情報や意見交換ができた。

## 総合社会教育センター

### ボランティア関係者ネットワーク形成セミナー 220 千円

### [事業目的及び概要]

ボランティア関係者の資質の向上及びネットワークの構築を目的としたセミナーを開催し、本県の社会参加活動の推進及び充実を目指す事業である。

### [事業内容及び結果]

- 《青森会場》 11/27(火) 県総合社会教育センター 参加者 18名
- 《弘前会場》 11/29(木) 弘前市民会館 参加者 17名
- 《八戸会場》 12/ 4(火) 八戸市総合福祉会館 参加者 16名

### ○内容

- 講義・演習 「人が集まる組織のつくり方～ボランティア活動の活性化を目指して～」  
講師 岩手県立大学 社会福祉学部社会福祉学科 コミュニティ福祉系  
准教授 菅野 道生
- 事例発表・情報交換 (青森会場) 「お助けマンクラブの活動」～市民団体だからできること～  
お助けマンクラブ 代表 松江 法子
- (弘前会場) 「住民主体による地域福祉活動(ボランティア)の取り組み」  
藤崎町社会福祉協議会 主査 成田 朋之
- (八戸会場) ～懐かしの学校「駅ナカ学校」～「駅さいぐべし！」  
駅ナカにぎわい空間実行委員会 会長 夏原 謙二

### [成果と課題]

ボランティア活動の活性化を目指して、人が集まる組織をつくるためには、ボランティアに来てほしい運営側のニーズとボランティアに来る参加者側のニーズのマッチングを意識しながら、企画・運営す

ることの必要性について具体的に学ぶことができた。

今後もボランティアに関わる関係者の資質の向上及び更なるネットワークの構築を図るために、関係機関からボランティアに係る課題や研修に対するニーズを把握し講師と密に連絡を取った上で、事業周知を行う必要がある。

### 公民館等の防災・減災教育機能強化事業(再掲)

(P93 (2)活力ある地域コミュニティの形成に向けた人財の育成に掲載)

### 生涯学習・社会教育関係職員研修講座(再掲)

(P93 (2)活力ある地域コミュニティの形成に向けた人財の育成に掲載)

## 県立図書館

県立図書館資料整備 63,047 千円

#### [事業目的及び概要]

県民の生涯学習の拠点として、充実した図書館サービスを提供することを目的として、利用者の幅広い学習のための資料や情報などの整備を図る事業である。

#### [事業内容及び結果]

(1) 受入資料数(H30/4/1～H31/3/31)

区分	受入資料数
県立図書館(本館)	16,466 冊
市町村等協力用	4,174 冊
近代文学館	2,635 冊
合計	23,275 冊

(2) 図書館利用状況(H30/4/1～H31/3/31)

図書館利用者数	269,588 名		
近代文学館利用者数	24,689 名		
年間利用資料数	一般閲覧室	147,562 冊	※アウトリーチサービス 身障者等への配本サービス
	児童閲覧室	46,031 冊	
	オンライン貸出	5,673 冊	
	新聞未合冊等	6,317 冊	
	アウトリーチ(全体の内数)	(512 冊)	
	市町村一括(協力)貸出等	41,168 冊	
	計	246,751 冊	
年間登録者数	新規登録者数	3,118 名	※うち、アウトリーチ総登録者数を含む。
	総登録者数	21,190 名	

(3) 市町村図書館等への貸出の状況(H30/4/1～H31/3/31)

相互貸借 (県立図書館からの貸出)	県内市町村立図書館等	4,787 冊
	県外公共図書館等	676 冊
	計	5,463 冊
団体一括貸出	26,929 冊	
集団読書用図書	122 冊	

市町村立図書館等職員研修事業 245 千円

#### [事業目的及び概要]

市町村立図書館等の運営上の課題解決、情報交換及び職員の資質向上を図ることを目的として、初任者研修、実務研修、テーマ別研修及び提案型研修を実施するとともに、相互協力事業を円滑に行うために青森県立図書館事業等担当者会議を開催する事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 担当者会議

ア 開催日	5/10(木)
イ 場所	県立図書館
ウ 参加者	市町村立図書館等職員 35 名
エ 内容	県立図書館と市町村立図書館等の間で行われる相互協力事業に関する説明

(2) 初任者研修①

ア 開催日	5/23(水)
イ 場所	県立図書館
ウ 対象	勤務経験が 2 年以内の図書館・公民館等の職員及び学校図書館の業務を担当する職員
エ 参加者	市町村立図書館等職員 24 名、学校図書館業務担当職員 7 名
オ 内容	一定レベルの図書館サービスを提供するための基礎的研修 「関係法規、公共図書館・学校図書館の現状と課題」

(3) 初任者研修②

ア 開催日	6/28(木)
イ 場所	県立図書館
ウ 対象	勤務経験が 2 年以内の図書館・公民館等の職員及び学校図書館の業務を担当する職員
エ 参加者	市町村立図書館等職員 26 名、学校図書館業務担当職員 4 名
オ 内容	一定レベルの図書館サービスを提供するための基礎的研修 「資料管理、児童サービスに関する講義」

(4) テーマ別研修

ア 開催日	6/13(水)
イ 場所	県立図書館
ウ 対象	市町村立図書館、公民館図書室等の職員(館長、非常勤職員等を含む)及び学校図書館の業務を担当する職員、その他希望者
エ 参加者	市町村立図書館等職員 47 名、学校図書館業務担当職員 6 名
オ 内容	テーマ「図書館サービスと著作権」
カ 講師	公益社団法人日本図書館協会 著作権委員会 委員 国立国会図書館 井上 奈智

(5) 実務研修

ア 開催日	11/22(木)
イ 場所	県立図書館
ウ 対象	市町村立図書館、公民館図書室等の職員(館長、非常勤職員等を含む)、その他希望者
エ 参加者	市町村立図書館等職員 17 名、学校図書館業務担当職員 2 名
オ 内容	テーマ「これからの図書館における高齢者サービス」
カ 講師	国立大学法人筑波大学図書館情報メディア系 教授 呑海 沙織

(6) 提案型研修

ア 開催日	11/9(金)
イ 場所	県総合社会教育センター 第 5 研修室
ウ 対象	県内図書館・公民館等のすべての職員
エ 参加者	市町村立図書館等職員 22 名
オ 内容	テーマ「関西・中部発「これが普通の図書館やねん」」
カ 講師	生駒市教育委員会事務局図書館 主査 田中 渉 名古屋市山田図書館 奉仕課長 鈴木 崇文

## [成果と課題]

青森県立図書館事業等担当者会議では、県立図書館が実施している市町村立図書館等への支援事業の活用の促進と、県立図書館と各市町村立図書館等及び各市町村立図書館等間の連携が図られた。

初任者研修では、新たに図書館に勤務することとなった市町村職員等が、図書館の理念やサービスについて理解し、各館での円滑な日常業務の遂行に寄与した。

実務研修では、市町村立図書館等から要望のあったテーマを取り上げることにより、市町村立図書館等のサービスの質の向上や、各館における取組みの見直し等、利用者サービスの向上に繋がった。

テーマ別研修では、図書館職員の資質向上のために特に重要なテーマを取り上げて実施していくことで、図書館職員に必要である継続的な研修受講の機会を設定することができた。

提案型研修では、各市町村立図書館、公民館等からの提案で研修を実施することにより、図書館職員の意識、知識、技能及び意欲の発展・向上、図書館等の振興、図書館活動の活性化に繋がった。

いずれの研修等も、各市町村立図書館等の課題や職員のニーズを踏まえた研修内容の提供とよりわかりやすい説明、意見交換の場として活用していくことが今後さらに必要である。